

教科（科目）	現代文B	単位数	3	学年（科）	3学年（国際文化科）
使用教科書	数研出版『改訂版 現代文B』				
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・大修館書店『明鏡国語辞典第二版』 ・第一学習社『新訂総合国語便覧』 				

1 学習目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、思考力を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

2 指導の重点

- ①文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価すること。
- ②文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。
- ③文章を読んで批評することを通じて、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり、発展させたりすること。
- ④目的や課題に応じて、収集した情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現すること。
- ⑤語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特徴をとらえ、自分の表現や推敲に役立てること。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

（関心・意欲・態度）	（思考・判断・表現）（技能）			（知識・理解）
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりしようとしている。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話し合ったり、的確に聞き取ったりしている。	自分の考えをまとめたり、深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書いている。	自分の考えを深めたり、発展させたりしながら、目的に応じて近代以降の様々な文章を的確に読み取ったり、読書に親しんだりしている。	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。

以上の観点を踏まえ、

- ・定期考査
- ・長期休業後の課題テスト
- ・小テスト
- ・ノートや提出物の内容
- ・授業の取り組み

などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

- ① 3年生では2年次よりもさらに抽象度の高い文章を読むので、語彙力や漢字の知識の定着を図りましょう。
- ② 「読む能力」を向上させるとともに、コミュニケーションのための「話す・聞く能力」や意思を伝えるための「書く能力」をしっかりと身に付けましょう。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	「知識社会という幻想」	5	評論	・筆者の主張する「知」のあり方について理解させる。
	「文化が違うとは何を意味するのか？」	5		<ul style="list-style-type: none"> ・「譲歩」→「逆接」という論の展開を習得する。 ・筆者の言う文化相対主義とはどのようなことかを理解す

		(10)		る。 ・真の異文化理解とはどのようなことか考える。
5	「檸檬」 「人はなぜ働かなくてはならないか」	7 5 (12)	小説 評論	・「私」の思考や行動に見られる青春期的特質はどのようなものかを理解する。 ・自分の中にある心の「不可思議さ」と向き合う。 ・仮説を立てて、一般的に考えられる答えを否定しつつ、真の「労働の意義」に迫る筆者の論理展開を把握させ、筆者の考える労働の意義を理解する。
6	「であることとすること」 ※前期中間考査	10 (10)	評論	・「である」と「する」という二つの図式に着目して、筆者が明晰な論理を理解する。 ・自己と社会の関係について認識を深め、課題を解決していくために必要な思考力と行動力を身につける。
7 8	「舞姫」	12 (12)	小説	・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わい、日本の近代と個人の生き方との関係について考える。
9	「消費されるスポーツ」 ※前期期末考査 「メディアのテロル」	5 5 (10)	評論 評論	・アメリカの近代スポーツの特徴と大衆社会との関連性を理解する。 ・近代スポーツのメディアの発達に伴った変容について読解する。 ・「メディアのテロル」とはどのようなものであるかを読み取る。 ・マクルーハンやベンヤミンなど、メディア論の先駆者の意見に触れる。
10	「赤い繭」 「環境と心の問題」	6 5 (11)	小説 評論	・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み、反リアリズム小説のおもしろさを味わう。 ・前衛的な作品に触れることで、読書の領域を広げる。 ・近代科学の自然観を支えた「物心二元論」について学ぶ。 ・「物心二元論」が現在の閑居問題につながっていく論理展開をつかむ。
11	「エコロジーのミューズを求めて」 「顔の所有」	5 5 (10)	評論 評論	・エコロジー・ムーブメントの表層性を近代の問題点とともに理解する。 ・筆者の哲学的思考の流れ丁寧にたどり、「顔」の意味について改めて考える。
12 1	「無情ということ」 「朝のヨット」 ※ 後期中間考査	6 5 (11)	評論 小説	・文学的な評論を読み、表現や論の展開について学ぶ。 ・登場人物の価値観の差に気づき、その差が生じる原因について考える。
2 3	表現1 広告 表現2 報告書 表現3 小論文	5 5 (10)	表現	・広告が何を伝えようとしているのかを読み取り、さまざまな工夫に気づかせる。 ・情報の真偽を確かめ、整理し分析する力をつける。 ・問題意識を普段から持ち、課題について深く考える思考力を養わせる。

計96時間 (55分授業)

教科（科目）	古典B	単位数	4	学年（科）	3学年（国際文化科）
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂版 古典B 古文編』『高等学校 改訂版 古典B 漢文編』				
副教材等	・ベネッセ『全訳古語辞典』 ・第一学習社『完全マスター 古典文法』 ・大修館書店『新漢語林』 ・尚文出版『新明説漢文』 ・第一学習社『新訂総合国語便覧』				

1 学習目標

古典としての古文・漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 指導の重点

- ①文法事項の確認と構文を意識した読解を通して、着実な理解力を身につける。
- ②詩歌については、表現技巧に注意して、詠者の心情を読み取る力をつける。
- ③省略や行間を意識した読解を行い、主題をとらえる。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

（関心・意欲・態度）	（思考・判断・表現）（技能）		（知識・理解）
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力
古典を読む力を高め、作品の価値について自ら考察するとともに、我が国の文化の特質や中国の文化との関係について理解を深めようとしている。	/	/	古典を読んで、内容及び思想や感情を、構成や展開に即して的確に捉え、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにしようとしている。
			知識・理解 古典の理解に役立つため、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けようとしている。

以上の観点を踏まえ、

- ・定期考査、・長期休業後の課題テスト・小テスト・ノートや提出物の内容、授業の取り組みなどから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

- ①毎時間、必ず予習を行い、特に注意して聴くべき箇所を明確にした上で授業に臨みましょう。
- ②質問を積極的に言い、疑問はすぐ解消する習慣をつけましょう。
- ③単なる読解に終わらず、文章に込められた「主題」を読み解くことを目標に取り組みましょう。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	沙石集	7	説話	・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・随想を読んで、人間、社会、自然、などに対する作者の思想や感情を読みとる。
	枕草子	7	随筆	
		(14)		
5	不顧後患	3	逸話	・筆者が本文によって表そうと意図した内容について正確に把握する。
	俊頼髓脳	6		

	無名抄	5 (14)	評論	<ul style="list-style-type: none"> ・歌論を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。
6	蜻蛉日記 和泉式部日記 紫式部日記 ※前期中間考査	4 5 5 (14)	日記	<ul style="list-style-type: none"> ・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・物語的な日記の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・和歌の贈答について理解し、恋愛感情が高まるさまを読み取る。
7	大鏡 張儀 荊軻	4 4 5 (13)	物語 史記	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史物語を読んで、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・長めの文章を読んで、漢文に親しみをもち、読解力を高める。
8 9	無名草子 ※前期期末考査 玉勝間 論語、孟子 老子、荘子 韓非子	5 4 3 3 3 (18)	評論 儒家・道家・法家の 思想	<ul style="list-style-type: none"> ・評論を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・学問的随筆を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・中国の主要な思想である道家、法家の主張の概要を理解する。 ・重要句形の読みと意味について理解を深め、それに即して口語訳を行う。
10	源氏物語 古体詩	11 4 (15)	物語 漢詩	<ul style="list-style-type: none"> ・長編物語の構成や展開を理解し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・和歌を含む物語を読んで、物語における和歌の役割を考える。 ・古体詩について近体詩と比較して鑑賞する。
11	西鶴諸国ばなし 趙太后 ※後期中間考査	6 6 (12)	近世の小説 古代の史話	<ul style="list-style-type: none"> ・近世小説を読んで、大意把握の力を養う。 ・話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。
12 1	風姿花伝 去来抄 医薬談笑	4 4 6 (14)	評論 宋・元代の文章	<ul style="list-style-type: none"> ・能楽論を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・俳諧に対する興味・知識を深める。 ・中国古典の随想・紀行のおもしろさを味わい、宋・元代の知識人の文章に親しむ。
2 3	雨月物語 為学	8 6 (14)	近世の小説 清代の文章	<ul style="list-style-type: none"> ・近世小説を読んで、大意把握の力を養う。 ・清代の知識人の文章に親しみ、その特徴を把握する

計128時間 (55分授業)

教科（科目）	現代文B	単位数	2	学年（科）	3学年（情報科学科）
使用教科書	数研出版『改訂版 現代文B』				
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・大修館書店『明鏡国語辞典第二版』 ・第一学習社『新訂総合国語便覧』 				

1 学習目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、思考力を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

2 指導の重点

- ①文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価すること。
- ②文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。
- ③文章を読んで批評することを通じて、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり、発展させたりすること。
- ④目的や課題に応じて、収集した情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現すること。
- ⑤語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特徴をとらえ、自分の表現や推敲に役立てること。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

（関心・意欲・態度）	（思考・判断・表現）（技能）			（知識・理解）
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりしようとしている。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話し合ったり、的確に聞き取ったりしている。	自分の考えをまとめたり、深めたりして、相手や目的に応じて、筋道を立てて適切に文章を書いている。	自分の考えを深めたり、発展させたりしながら、目的に応じて近代以降の様々な文章を的確に読み取ったり、読書に親しんだりしている。	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。

以上の観点を踏まえ、

・定期考査、・長期休業後の課題テスト・小テスト・ノートや提出物の内容、授業の取り組みなどから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

- ① 3年生では2年次よりもさらに抽象度の高い文章を読むので、語彙力や漢字の知識の定着を図りましょう。
- ② 「読む能力」を向上させるとともに、コミュニケーションのための「話す・聞く能力」や意思を伝えるための「書く能力」をしっかりと身に付けましょう。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	「知識社会という幻想」	4	評論	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張する「知」のあり方について理解させる。 ・「譲歩」→「逆接」という論の展開を習得する。
	「文化が違うとは何を意味するのか？」	3 (7)	評論	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の言う文化相対主義とはどのようなことかを理解する。 ・真の異文化理解とはどのようなことかを考える。

5	「檸檬」 「人はなぜ働かなくてはならないか」	5	小説	<ul style="list-style-type: none"> ・「私」の思考や行動に見られる青春期の特徴はどのようなものかを理解する。 ・自分の中にある心の「不可思議さ」と向き合う。 ・仮説を立てて、一般的に考えられる答えを否定しつつ、真の「労働の意義」に迫る筆者の論理展開を把握させ、筆者の考える労働の意義を理解する。
		3 (8)	評論	
6	「である」ことと「すること」 ※前期中間考査	8 (8)	評論	<ul style="list-style-type: none"> ・「である」と「すること」という二つの図式に着目して、筆者が明晰な論理を理解する。 ・自己と社会の関係について認識を深め、課題を解決していくために必要な思考力と行動力を身につける。
7 8	「舞姫」	6 (6)	小説	<ul style="list-style-type: none"> ・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わい、日本の近代と個人の生き方との関係について考える。
9	「消費されるスポーツ」 ※前期期末考査 「メディアのテロル」	4	評論	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの近代スポーツの特徴と大衆社会との関連性を理解する。 ・近代スポーツのメディアの発達に伴った変容について読解する。 ・「メディアのテロル」とはどのようなものであるかを読み取る。 ・マクルーハンやベンヤミンなど、メディア論の先駆者の意見に触れる。
		3 (7)	評論	
10	「赤い繭」 「環境と心の問題」	4	小説	<ul style="list-style-type: none"> ・描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み、反リアリズム小説のおもしろさを味わう。 ・前衛的な作品に触れることで、読書の領域を広げる。 ・近代科学の自然観を支えた「物心二元論」について学ぶ。 ・「物心二元論」が現在の閉居問題につながっていく論理展開をつかむ。
		4 (8)	評論	
11	「エコロジーのミューズを求めて」 「顔の所有」	4	評論	<ul style="list-style-type: none"> ・エコロジー・ムーブメントの表層性を近代の問題点とともに理解する。 ・筆者の哲学的思考の流れ丁寧にとどり、「顔」の意味について改めて考える。
		3 (7)	評論	
12 1	「無情ということ」 「朝のヨット」 ※ 後期中間考査	4	評論	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的な評論を読み、表現や論の展開について学ぶ。 ・登場人物の価値観の差に気づき、その差が生じる原因について考える。
		3 (7)	小説	
2 3	表現1 広告 表現2 報告書 表現3 小論文	2	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・広告が何を伝えようとしているのかを読み取り、さまざまな工夫に気づかせる。 ・情報の真偽を確かめ、整理し分析する力をつける。 ・問題意識を普段から持ち、課題について深く考える思考力を養わせる。
		2		
		2 (6)		

計64時間（55分授業）

教科（科目）	古典B	単位数	3	学年（科）	3学年（情報科学科）
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂版 古典B 古文編』『高等学校 改訂版 古典B 漢文編』				
副教材等	・ベネッセ『全訳古語辞典』 ・大修館書店『新漢語林』 ・第一学習社『新訂総合国語便覧』 ・第一学習社『完全マスター 古典文法』 ・尚文出版『新明説漢文』				

1 学習目標

古典としての古文・漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 指導の重点

- ①文法事項の確認と構文を意識した読解を通して、着実な理解力を身につける。
- ②詩歌については、表現技巧に注意して、詠者の心情を読み取る力をつける。
- ③省略や行間を意識した読解を行い、主題をとらえる。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

（関心・意欲・態度）	（思考・判断・表現）（技能）		（知識・理解）	
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
古典を読む力を高め、作品の価値について自ら考察するとともに、我が国の文化の特質や中国の文化との関係について理解を深めようとしている。	/	/	古典を読んで、内容及び思想や感情を、構成や展開に即して的確に捉え、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにしようとしている。	古典の理解に役立つため、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けようとしている。

以上の観点を踏まえ、

- ・定期考査
- ・長期休業後の課題テスト
- ・小テスト
- ・ノートや提出物の内容、授業の取り組みなどから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

- ①毎時間、必ず予習を行い、特に注意して聴くべき箇所を明確にした上で授業に臨みましょう。
- ②質問を積極的に行い、疑問はすぐ解消する習慣をつけましょう。
- ③単なる読解に終わらず、文章に込められた「主題」を読み解くことを目標に取り組みましょう。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	沙石集	5	説話	・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・随想を読んで、人間、社会、自然、などに対する作者の思想や感情を読みとる。
	枕草子	5 (10)	随筆	
5	不顧後患	5	逸話	・筆者が本文によって表そうと意図した内容について正確に把握する。

	俊頼隨函	5 (10)	評論	<ul style="list-style-type: none"> ・歌論を読んで、作者の思想や感情を読み取る。
6	蜻蛉日記 和泉式部日記 ※前期中間考査	5 5 (10)	日記 日記	<ul style="list-style-type: none"> ・日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・物語的な日記の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・和歌の贈答について理解し、恋愛感情が高まるさまを読み取る。
7	大鏡 張儀	5 5 (10)	物語 史記	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史物語を読んで、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・長めの文章を読んで、漢文に親しみをもち、読解力を高める。
8 9	無名草子 ※前期期末考査 論語、孟子 老子、莊子、韓非子	6 8 (14)	評論 儒家・道家・法家の思想	<ul style="list-style-type: none"> ・評論を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・学問的随筆を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・中国の主要な思想である道家、法家の主張の概要を理解する。
10	源氏物語	12 (12)	物語	<ul style="list-style-type: none"> ・長編物語の構成や展開を理解し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・和歌を含む物語を読んで、物語における和歌の役割を考える。
11	西鶴諸国ばなし 趙太后 ※後期中間考査	5 5 (10)	近世の小説 古代の史話	<ul style="list-style-type: none"> ・近世小説を読んで、大意把握の力を養う。 ・話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。
12 1	風姿花伝 去来抄 医薬談笑	3 4 3 (10)	評論 評論 宋・元代の文章	<ul style="list-style-type: none"> ・能楽論を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・俳諧に対する興味・知識を深める。 ・中国古典の随想・紀行のおもしろさを味わい、宋・元代の知識人の文章に親しむ。
2 3	雨月物語 為学	5 5 (10)	近世の小説 清代の文章	<ul style="list-style-type: none"> ・近世小説を読んで、大意把握の力を養う。 ・清代の知識人の分業に親しみ、その特徴を把握する。

計96時間 (55分授業)

教科(科目)	地理B	単位数	3単位	学年(科)	3学年(情報科学科)
使用教科書	・帝国書院『新詳地理B』『新詳高等地図』				
副教材等	・とうほう『新編地理資料2021』				

1. 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的・文化的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 指導の重点

- ①授業に集中すること。「どこで」「なぜ」という問題意識を常にもちながら、授業を受ける。こうした姿勢が、地理的な思考能力の向上につながる。
- ②知識を定着させる重要な手段が、週末課題と小テストである。この2つに真剣に取り組み、短いスパンで確実な知識定着を目指す。

3. 評価規準と評価方法

〈評価の観点〉

- ・現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究しようとする姿勢が見られる。
(関心・意欲・態度)
- ・現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを系統地理的・地誌的に考察し、公正に判断・表現することができる。(思考・判断・表現)
- ・地図や統計、画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択し、読み取ったり図表にまとめたりすることができる。(資料活用の技能)
- ・現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。(知識・理解)

〈評価の方法〉

評価の観点をふまえ、定期考査、小テスト、授業への取り組み方や提出物などから総合的に判断する。

4. 学習アドバイス

- ①地理は復習重視の科目である。授業後すぐにノート・プリントの見直しや要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的である。そのためには何よりも授業への集中が大前提である。
- ②新聞やニュースは地理ネタの宝庫である。世界の今に興味をもち、なぜそうなっているのかを考えてみることで、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながる。
- ③模試は、受けるたびに必ず復習し、提出してもらおう。授業で学んだ知識が本当に活用できるのか、新たな視点や最新の統計を用いた出題にはどのようなものがあるのかなど知ることは大切である。

月	単元・考査等	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	現代世界の地域区分 現代世界の諸地域	8	現代世界の地域区分 東アジア	・地域区分の方法について理解する。 ・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。
5	現代世界の諸地域	8	東アジア 東南アジア	・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。
6	現代世界の諸地域 前期中間考査	9	西アジアと中央アジア	・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。
7 8	現代世界の諸地域	11	北アフリカとサハラ 以南のアフリカ ヨーロッパ	・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。
9	現代世界の諸地域 前期期末考査	9	ヨーロッパ ロシア	・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。
10	現代世界の諸地域	9	アングロアメリカ ラテンアメリカ	・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。
11	現代世界の諸地域	9	オセアニア	・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。
12	現代世界と日本 後期中間考査	9	日本	・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。
1 2 3		24	現代世界の地域区分 のまとめ	・各国及び地域の地誌的な特色をまとめ、理解する。

計 96 時間（55 分授業）

教科 (科目)	世界史特論	単位数	4単位	学年 (科)	3学年 (国際文化科)
使用教科書	山川出版社『詳説世界史 改訂版』『詳説日本史 改訂版』				
副教材等	『グローバルワイド最新世界史図表 四訂版』(第一学習社)				

1 学習目標

- ① 世界の歴史の展開を我が国の歴史と関連付けて理解させる。
- ② 現代社会の特質を世界の歴史の展開をふまえ考察する。
- ③ 地理的条件と関連づけて理解する。

2 指導の重点

- ① 我が国の歴史との関連や現代社会の諸事象との関係を考察させる。
- ② 諸資料を活用し、生徒の興味が継続するよう指導を工夫する。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現) (技能)		(知識・理解)
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
世界の歴史に対する関心と課題意識を高め意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点を踏まえ、

- ・授業への取り組み方や授業態度、提出物の内容及び提出状況
- ・小テストの成績
- ・定期考査の成績
- ・課題研究

などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

- ① 世界史は復習重視の科目である。授業後すぐにノート・プリントの見直しや、資料集を使った復習を行うと効果的である。そのためには何よりも授業への集中が必要とされる。
- ② 新聞などのニュースは世界史のトピックの宝庫である。ニュースを通じて、世界の今に興味をもち、その背景を考えることが、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながる。

5 学習計画

月	単元等	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4月	世界の一体化のなかの日本	1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・草原の道・オアシスの道・海の道 ・モンゴル帝国時代の東西交流 ・ヨーロッパ世界の拡大 	<p>・我が国を含むアジア諸地域とヨーロッパ世界の交流を理解し、大交易時代に地球規模で「世界の一体化」が促されたことや、産業革命が世界の分業体制を形成したことを具体的に考察する。</p>
5月		1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ諸国の海外進出 ・産業革命と資本主義の確立 	
6月		1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究—日本と世界諸地域の交流を経済・文化面に着目し、考察しレポートにまとめる。 	
7月	世界史のなかの宗教と日本	1 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ世界とキリスト教 ・イスラーム世界の展開 ・東アジア世界と儒教 	<p>・大西洋革命による欧米における近代国民国家の発展と、それが我が国を含む世界諸地域に伝統社会の変容を促したことを理解し、近代社会の到来を具体的に考察する。また、そのなかで宗教をめぐる問題が起きたことを具体的に考察する。</p>
8月		5	<ul style="list-style-type: none"> ・近代アジアの民族運動と宗教 ・現代の宗教問題 ・課題研究—現在の宗教をめぐる問題の 	
9月		1 2	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的背景を考察しレポートにまとめる。 	
10月	帝国主義と日本	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・パクス・ブリタニカ ・東アジアの激動と明治維新 ・日露戦争と国際関係 	<p>・帝国主義の時代における列強の対立と、それが世界諸地域へ与えた影響を理解し、我が国と我が国を取り巻く国際環境の変化を、特に19世紀～20世紀を取り上げ具体的に考察する。</p>
11月		1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・両大戦期の日本と植民地 ・戦後日本の経済復興 	
12月		1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究—近代日本とアジア諸地域の関係を、人物や組織に着目し考察しレポートにまとめる。 	
1月	世界史のなかの戦争・災害と日本	1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ギリシア・ローマの戦争と民主政 ・近世ヨーロッパの戦争と災害 	<p>・米ソを中心とした冷戦体制とその展開、グローバル経済の進展、現代の諸地域世界の情勢について理解し、我が国を取り巻く現在の国際環境を具体的に考察する。また、戦争・災害の与えた人間社会への変化を具体的に考察する。</p>
2月		1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制 	
3月		4	<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌と第二次世界大戦 ・米ソの冷戦と日本 ・現代文明と自然災害 ・課題研究—戦争・災害の与えた人間社会への変化を具体的に考察しレポートにまとめる。 	

計 128時間 (55分授業)

教科（科目）	日本史特論	単位数	4単位	学年（科）	3学年（国際文化科）
使用準教科書	山川出版社『詳説日本史 改訂版』、『詳説世界史 改訂版』				
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・第一学習社『最新日本史図表 三訂版』 ・山川出版社『改訂版詳説日本史10分間テスト（改訂版）』 ・実教出版『五訂必携日本史用語』 ・浜島書店『ゼミナール日本史（2020年改訂版）』 				

1 学習目標

- 1 わが国の歴史を、世界の歴史や国際環境と関連付けて多角的に考察する。
- 2 地理的条件と関連付けて考察する。
- 3 資料を用いながら考察する。そのさい、歴史資料の特性、解釈、複数の歴史的解釈とその説明、論述ができるようにする。

2 指導の重点

- 1 授業第一主義を貫徹する。分かりやすい授業を心掛けます。
- 2 週末課題と小テスト、課題研究に真剣に取り組み、主体的に学ぶ姿勢を養います。
- 3 日本史に関する史料を通じて一層の理解の深化をはかるとともに、歴史的思考力や分析力を養います。

3 評価規準と評価方法

- 関心・意欲・態度
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとしている。
- 思考・判断・表現
我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
- 資料活用の技能
課題研究の機会を設定し、我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
- 知識・理解
我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、
 - ・授業への取り組み方や授業態
 - ・提出物の内容及び提出状況
 - ・定期考査
 - ・学習到達度確認テスト
などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

- 1 授業を大切にす。
- 2 週末課題、小テストで、基礎・基本の定着をはかる。
- 3 定期考査をしっかり活用する。
- 4 課題研究（自主的テーマ設定、考察の深化など）に、自主的・主体的に取り組む。

5 学習計画

月	単元・考査等	時数	主要学習領域	学習活動(指導内容)
4	アジアの近代化	12	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国のアジア進出 ・明治維新の成果と影響 ・イスラーム世界の近代化と原理主義 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の近代化と、欧米諸国のアジア進出などの国際環境との関連性が理解できるように留意する。 ・日本とアジア諸国の歴史を相互に比較する。また、日本人のアジア観とアジア諸国からみた日本について、諸資料を活用しながら考察させる。 ・課題探究では、近代国家の成立、および国際関係と日本の関わりについて、生徒自身にテーマを設定させ、自発的に課題を探究させる。
5	○前期中間考査	13	<ul style="list-style-type: none"> ・清朝の改革と辛亥革命 ・アジアにおける近代化 	
6		14	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人のアジア観とアジア諸国からみた日本 ・岩倉使節団と明治政府の人々の国際認識 ・課題探究 	
7	日清戦争と日露戦争	12	<ul style="list-style-type: none"> ・日清戦争と日露戦争 ・日本から米への移民 ・アジアでの革命 	<ul style="list-style-type: none"> ・日清、日露戦争がアジアの民族解放・独立を目指すナショナリズムの情勢のなかで行われたこと、日露戦争における勝利がアジア諸民族の独立や近代化に影響を与えたことを考察させる。
8	国際社会と日本	5	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦と日本 ・第一次世界大戦前後の対外政策の推移 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次大戦以前の国際関係と戦後の国際協調体制、国際社会における日本と対外政策の変化について考察させる。
9		12	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦中と大戦後の社会の変化 ・課題探究 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の資本主義の発展とそれにより発生した産業構造の変化や都市、労働者の問題を考察させる。 ・課題探究では、戦争やその後の対外政策や社会の変化について、生徒自身にテーマを設定させ、自発的に課題を探究させる。
10	第二次世界大戦	13	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国の国際的影響力と他の資本主義諸国への波及 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の対外政策の推移を国際環境や国内の状況と関連させながら考察させる。
11	現代日本の政治と国際関係	13	<ul style="list-style-type: none"> ・民族運動の伸張と全体主義の台頭、軍部の進出と日本の対外政策の推移 ・第二次世界大戦 ・占領政策 	<ul style="list-style-type: none"> ・対外的にはアジア・アフリカの民族運動の伸張と全体主義の台頭による国際社会の変化、国内では軍部の政治的進出と日本の対外政策の推移を関連付けながら考察する ・第二次世界大戦が広範囲に及び、戦争の様相が多数の民間人を含めた犠牲をもたらしたことを理解させる。
12		10	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア情勢の変化と日本の政策の変化 ・国際連合とアジア・日本 ・グローバリズムの進展と日本 ・課題探究 	<ul style="list-style-type: none"> ・占領政策が冷戦におけるアメリカの対外政策と結びつきながら推移することに着目させる。 ・課題探究では、2つの世界大戦、および戦後の国際関係と日本の関わりについて、生徒自身にテーマを設定させ、自発的に課題を探究させる。
1	日本と世界の恐慌	12	<ul style="list-style-type: none"> ・大戦後の経済の動向 ・世界恐慌と経済政策 	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易額の急増や欧米やアジア向けの輸出の振興による資本主義の発展と社会構造の変化を考察させる。
2	○後期期末考査	12	<ul style="list-style-type: none"> ・大東亜共栄圏とアジアの通貨制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の経済復興の過程と、高度経済成長と安定成長を経た日本の経済大国への変化を、大きな流れとして捉えさせる。
			<ul style="list-style-type: none"> ・戦後日本の復興と経済政策 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題探究では、近代国家の成立、および国際関係と日本の関わりについて、生徒自身にテーマを設定させ、自発的に課題を探究させる。

計 128 時間 (55 分授業)

科目	地理特論	単位数	4単位	学年(科)	3学年(国際文化科)
使用準教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国書院『新詳地理B』、『新詳高等地図』 ・山川出版社『詳説世界史 改訂版』、第一学習社『高等学校 改訂版 現代社会』 				
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・とうほう『新編地理資料2021』 				

1. 学習目標

現代世界の諸地域について、政治的・経済的要因や近現代史を踏まえて多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解させるとともに、現代世界を地誌的に考察する方法を身につけさせる。自らテーマを設定して資料を収集・選択し、それらを解釈し発表するなどの活動を通して、自ら課題を見つけ、解決に向けて取り組む態度を育み、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 科目の内容

- ① 現代世界の諸地域
- ② 現代世界と日本

3. 指導の重点

- ① 授業に集中させ、「どこで」「なぜ」という問題意識を常に持たせながら、授業を展開し、地理的な思考能力の向上につなげる。
- ② 週末課題と小テストを利用しながら、知識の定着をはかり、地誌的な考察力を養う。

4. 評価規準と評価方法

○関心・意欲・態度

現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。

○思考・判断・表現

現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

○資料活用の技能

地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

○知識・理解

現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

以上の観点から、以下の方法で総合的に評価する。

- ・授業への取り組み方や授業態度、提出物の内容及び提出状況
- ・小テストの成績
- ・定期考査の成績

5. 学習アドバイス

- ① 地理は復習重視の科目である。授業後すぐにノート・プリントの見直しや、要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的である。そのためには何よりも授業への集中が必要とされる。
- ② 新聞などのニュースは地理のトピックの宝庫である。ニュースを通じて、世界の今に興味をもち、その背景を考えることが、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながる。

月	単元等	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	現代世界の諸地域	1 2	1 東アジア	・東アジアの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。
5	現代世界の諸地域	1 2	2 東南アジア	・東南アジアの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。
6	現代世界の諸地域	1 4	3 南アジア 4 西アジア・中央アジア	・南アジアの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。 ・西アジア・中央アジアの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。
7 8	現代世界の諸地域	1 4	5 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 課題研究	・北アフリカとサハラ以南の国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。 ・アジアの国々の中から2か国を選び、その共通点・相違点について歴史的背景を踏まえて考察し、発表する。
9	現代世界の諸地域	1 2	6 ヨーロッパ 7 ロシア 課題研究	・ヨーロッパの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。 ・ロシアについて、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。 ・EUの発展や課題について、国際政治・国際経済の状況を踏まえて考察し、まとめる。
10	現代世界の諸地域	1 2	8 アングロアメリカ	・アングロアメリカの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。
11	現代世界の諸地域	1 2	9 ラテンアメリカ 10 オセアニア 課題研究	・ラテンアメリカの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。 ・オセアニアの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。 ・環太平洋地域の政治的・経済的結びつきや今後の課題について、APECなど具体的な国際組織を取り上げて多面的に考察し、まとめる。
12	現代世界と日本	1 2	課題研究	・これまでの学習を踏まえ、日本が現在抱える問題や、国際社会において果たすべき役割について、テーマを設定して考察し、発表する。
1	テーマ学習	1 1	課題研究	・自らが選んだテーマについてより深く探求し、まとめる。
2	テーマ学習	1 1	課題研究	・自らが選んだテーマについて発表し、全体で意見交換を行う。
3	テーマ学習	6	課題研究	・これまでの学習を振り返り、まとめる。

計 128 時間（55 分授業）

令和5年度シラバス（国際理解）

学番54 県立国際情報高等学校

科目	国際理解	単位数	4単位	学年(科)	3学年(国際文化科)
使用準教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・第一学習社『高等学校 改訂版 現代社会』・実教出版『高校倫理 新訂版』、 ・山川出版社『詳説世界史 改訂版』 				
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・政治・経済資料（とうほう） ・アプローチ倫理資料 PLUS（東京法令出版） ・その他、プリント・既習の科目の教科書・資料集など必要に応じて使用 				

1. 学習目標と科目設置の理由

現在、本校では、国際理解を教育方針の一つと位置づけており、国際社会で活躍できる人材の育成を行っている。3年次においては、既に学習してきた教科・科目を体系的・横断的にとらえ、現存する国際社会及びそこで生じる諸問題を理解・考察することが必要であり、そのために本科目を設定し、以下を学習目標とする。

- 1 国際的な視野に立ち、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際社会などについて客観的に理解させる。
- 2 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づき、人格の形成に努める実践的意欲を高める。
- 3 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2. 指導の重点

- 1 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割について理解させ、国際政治の特質や国際紛争の諸要因について把握させ、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察させる。
- 2 日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深めさせる。

3. 評価基準と評価方法

・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手がかりとなる概念や理論について理解している。（知識・理解）

・福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述している。（思考・判断・表現）

・現代の諸課題と人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究し、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。（関心・意欲・態度）

・統計資料・画像・映像・動画などの諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。（資料活用の技能）

その他、上記の評価事項を踏まえて、小テストの成績、定期考査の成績、提出物などから総合的に評価する。

4. 学習アドバイス

- 1 この教科では予習より復習を重視する。授業後すぐに、ノートの見直しや教科書・資料集による復習を行うと効果的である。それによって、現在生じている国際社会での問題を的確に捉え、課題解決の具体的な方法を考察することへつながっていく。
- 2 新聞やニュースは現代社会で扱う事項の宝庫である。日々起こっている出来事に興味をもち、その背景を考えてみることで、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながる。

月	単元等	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	・現代社会を俯瞰する ・現代に生きる自己の課題	10	国際政治・国際経済 青年期の課題と自己形成	政治経済分野の復習（特に国際分野）を通して、現代を広く見る 「人間とは何か」をテーマに自己理解を進める
5	・人間としての自覚と生き方 ・人倫・ヒューマンイズムの源流と現代国際社会における人権保障	13	ギリシア哲学 世界三大宗教 人生の知恵 国際的人権の保障	哲学の誕生と「幸福をめぐる問い」について倫理学の側面から考察する 宗教と人々の生活の関わりについて学ぶ 古代中国の知恵から、現代社会を考察する 現在国際社会で行われている行為の多くが、この時期の思想を前提としていることを理解する。
6	・現代の社会と倫理 ・産業革命以降の経済と科学技術の関係	15	人間の尊厳 自然や科学技術と人間とのかかわり 民主社会における人間のあり方	人間とは何か。現代の自然科学や政治社会がいかんして形作られてきたのか。その思想的背景について理解を深める。特に民主主義という思想がどのようなことを背景に成立した思想であるか、どのように国際社会において標準的思想の一つとなったのかを理解する。
7 8	・現代の社会と倫理 ・国際経済と西洋近代思想	15	自己実現と幸福 個人と社会との関わり 現代における理性の問題 国際政治と平和主義 社会的公正を目指す思想と国際経済の問題	西洋近現代の思想について特徴とともに理解し、現代を生きるに当たって健全な批判精神を培う。ここで培った考えを使い、現在の国際社会に存在する西洋近現代的思想を批判的に考え、具体的経済事例をあげ、格差と公平についての考察を深める。
9	・国際社会に生きる ・国際社会の中の日本人のアイデンティティについて	15	日本の風土と伝統 仏教の伝来と隆盛 儒教の日本化	日本の伝統的な思想について触れ、現代の日本の根幹をなすものを理解する。その伝統と国際社会の間で起こる問題を考察する。
10	・国際社会に生きる日本人の自覚	12	日本文化と国学 近世庶民の思想 西洋近代思想の受容	日本の風土と伝統と、外来思想の受容の過程を学び、日本人としての自覚とは何か考察する。現代の日本について考える一助とする。 また、国際社会での日本の思想・日本文化の位置づけを改めて考察する。
11	・現代の諸課題と倫理 現代に生きる私たちの課題	12	課題研究につなげるため、具体的問題をあげる。	生命・環境・家族・地域社会・情報社会・グローバル化・福祉と平和など現代の私たち自身の問題をテーマに、これまでの知識・既習の教科・科目を総動員して考察する。
12	課題研究 1	12	課題研究の課題を設定する。	上記の内容から解決すべき課題を設定する。 とりわけ、国際社会に対する課題とそれに対する取り組み・解決策等について考察する。具体的には、国際社会で日本および日本人が主体となりうるような問題・問題解決・国際貢献等の課題を設定する。
1	課題研究 2	12	設定課題に関する中間発表を行う	上記の課題に対する考察を発表することにより、さらに考察や解決策・新たな課題を設定する。さらに自らが主体となった場合について具体的に考察する。
2 3	課題研究 3	12	最終的な考察を表現する。	上記の課題の解決策・考察等の発表を通じて得た批評から、最終的な解決策等を発表や文章の形で示す。

計 128 時間（55 分授業）

教科（科目）	数学（数学総合）	単位数	5単位	学年（科）	3学年（国際文化科）
使用教科書	数研出版『改訂版 高等学校 数学Ⅰ』・『改訂版 高等学校 数学Ⅱ』 『改訂版 高等学校 数学A』・『改訂版 高等学校 数学B』				
副教材等	数研出版『チャート式 増補改訂版 解法と演習 数学Ⅰ+A』 『チャート式 改訂版 解法と演習 数学Ⅱ+B』 数研出版『改訂版 4STEP 数学Ⅰ+A』 『改訂版 4STEP 数学Ⅱ+B』				

1 学習目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、課題を総合的かつ多面的に考察することをとおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育成する。また、各単元での基礎基本の定着を徹底させ、実戦問題に対応できる思考能力を身につける。

2 指導の重点

既習内容を発展的内容に応用していくため、前半は基礎的・基本的内容や重要事項の定着も十分にはかり、後半で応用力・記述力を育成していく。自宅学習用課題にも重点を置きながら指導を行う。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

（関心・意欲・態度）	（思考・判断・表現）（技能）		（知識・理解）
関心・意欲・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
数学的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを事象の考察に進んで活用しようとしている。	数学的活動を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り考えを深めようとしている。	事象を数量、図形などで数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付けている。	数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。

以上の観点を踏まえ、

- ・授業の取組（授業態度、グループまたはペアでの学習活動への参加状況など）
- ・日々の課題や週末の課題の取組状況、及び提出状況
- ・学習到達度確認問題と定期考査の成績

などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

基礎、標準レベルの力をつけるには、同じ問題に繰り返し取り組むことが重要である。成績が伴わない場合も、焦っているような問題に手を着けるのではなく、常にチャート式解法と演習（副教材）や授業で扱う問題に立ち返って弱点を無くしていくことが近道である。また、標準レベル以上の問題は「考える」ことを意識し、解法の糸口を模索してほしい。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	Ⅱ 【微分法と積分法】	4 8 2	②関数の値の変化 ③積分法 問題演習	・関数の増減・グラフの応用 ・不定積分・定積分 ・定積分と面積 微分・積分分野の総合演習
5	数学Ⅰ分野	6 10	・数と式 ・2次関数	「数と式」では、基礎的内容及び重要事項の定着を図る。 「2次関数」では、最大値、最小値を、場合分けをして考察する力を養う。
6	数学Ⅰ分野 前期中間考査	10 6	・図形と計量 ・データの分析	「図形と計量」、「データの分析」の基礎的・基本的内容及び重要事項の定着をはかり、総合的・複合的思考をつうじて課題を解決する力を養う。
7	数学A分野	6 6 4	場合の数と確率 図形の性質 整数の性質	「場合の数と確率」、「整数の性質」では、問題文を正確に読み取り、思考する力を養う。「図形の性質」では、基礎的内容及び重要事項の定着を図る。
8	数学Ⅱ分野	6	式と証明	「式と証明」では、証明の手法を学び、正しく証明や記述を行う力を養う。
9	数学Ⅱ分野 前期期末考査	8 8	図形と方程式 三角関数	「図形と方程式」では、基礎的・基本的内容及び重要事項の定着を図る。「三角関数」では、基礎的内容及び重要事項の定着を図る。
10	数学Ⅱ分野	4 8 6	指数・対数関数 微分法 積分法	「指数・対数関数」では、常用対数を使う意義を学び、実際に活用できる力を養う。「微分法」、「積分法」の基礎的・基本的内容及び重要事項の定着を図り、接線と面積等の複合的思考を通じて課題を解決する力を養う。
11	数学B分野 後期中間考査	8 4 6	平面ベクトル 空間ベクトル 数列	「平面ベクトル」、「空間ベクトル」の基礎的・基本的内容及び重要事項の定着を図り、既習の図形問題においても応用する力を養う。「数列」の基礎的・基本的内容及び重要事項の定着をはかり、総合的・複合的思考をつうじて課題を解決する力を養う
12	融合分野の発展拡充 総合演習①	12	数学ⅠⅡAB全般	各単元の重要事項をもとに、より実践的な演習、記述力の養成・充実を図る。
1	融合分野の発展拡充 総合演習②	12	数学ⅠⅡAB全般	各単元の重要事項をもとに、より実践的な演習、記述力の養成・充実を図る。
2 3	融合分野の発展拡充 総合演習③	16	数学ⅠⅡAB全般	各単元の重要事項をもとに、より実践的な演習、記述力の養成・充実を図る。

計 160 時間 (55 分授業)

教科（科目）	理数（理数数学Ⅱ）	単位数	3単位	学年（科）	3学年（情報科学科）
使用教科書	数研出版『改訂版 高等学校 数学Ⅰ』・『改訂版 高等学校 数学A』 『改訂版 高等学校 数学Ⅱ』・『改訂版 高等学校 数学B』 『改訂版 高等学校 数学Ⅲ』				
副教材等	数研出版『チャート式 増補改訂版 解法と演習 数学Ⅰ+A』 『チャート式 改訂版 解法と演習 数学Ⅱ+B』 『チャート式 改訂版 解法と演習 数学Ⅲ』 数研出版『改訂版 4STEP 数学Ⅰ+A』 『改訂版 4STEP 数学Ⅱ+B』 『改訂版 サクシード 数学Ⅲ』				

1 学習目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、課題を総合的かつ多面的に考察することをとおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいた判断する態度を育成する。各単元での基礎基本の定着を徹底させ、実戦問題に対応できる思考能力を身につける。

2 指導の重点

極限、微分法、微分法の応用、積分法とその応用の考え方を理解させ、標準的・発展的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。「発展内容の学習」においては、特に数学Ⅲの分野に重点を置く。基本的内容や重要事項の定着も十分にはかり、後半で応用力・記述力を育成することで、高等学校数学の総まとめとする。授業や自宅学習を中心とした学習に重点を置きながら、目標達成に努めてもらいたい。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

（関心・意欲・態度）	（思考・判断・表現）（技能）		（知識・理解）
関心・意欲・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
数学的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを事象の考察に進んで活用しようとしている。	数学的活動を通して、数学的な見方や考え方に身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り考えを深めている。	事象を数量、図形などで数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付けている。	数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。

以上の観点を踏まえ、

- ・授業の取組（授業態度、グループまたはペアでの学習活動への参加状況など）
- ・日々の課題や週末の課題の取組状況、及び提出状況
- ・学習到達度確認問題と定期考査の成績

などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

基礎、標準レベルの力をつけるには、繰り返し演習に取り組むことが重要である。各種副教材や授業で扱う問題に重点を置き学習していこう。また、標準レベル以上の問題は「考える」ことを意識し、解法の糸口を模索してほしい。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動 (指導内容)
4	Ⅲ 【式と曲線】 【関数】	3	① 2次曲線	・ 2次曲線の平行移動・ 2次曲線と直線 ・ 2次曲線の性質
		3	② 媒介変数表示と極座標	・ 曲線の媒介変数表示・ 極座標と極方程式 ・ コンピュータの利用
		3	問題演習 ○ 関数	2次曲線の問題演習 ・ 分数関数・ 無理関数・ 逆関数と合成関数
5	Ⅲ 【極限】	3	① 数列の極限	・ 数列の極限・ 無限等比数列・ 無限級数
		6	② 関数の極限	・ 関数の極限・ 三角関数と極限・ 関数の連続性
			問題演習	極限分野の問題演習
6	Ⅲ 【微分法】 【微分法の応用】 前期中間考査	2	① 導関数	・ 微分係数と導関数・ 導関数の計算
		3	② いろいろな関数の導関数	・ いろいろな関数の導関数・ 第n次導関数 ・ 曲線の方程式と導関数
		3	① 導関数の応用	・ 接線の方程式・ 平均値の定理 ・ 関数の値の変化・ 関数のグラフ
		2	② いろいろな応用	・ 方程式、不等式への応用・ 速度と加速度 ・ 近似式
7	Ⅲ 【積分法とその応用】	3	① 不定積分	・ 不定積分とその基本性質・ 置換積分法
		4	② 定積分	・ 部分積分法・ いろいろな関数の不定積分 ・ 定積分のいろいろな問題
		4	③ 積分法の応用	・ 面積・ 体積・ 道のり・ 曲線の長さ
8	理数数学Ⅰ分野の発展 拡充①	4	数学Ⅰ分野の発展的学習	主に数学Ⅰの各単元の応用力の養成
9	理数数学Ⅰ分野の発展 拡充② 前期期末考査	9	数学A分野の発展的学習	主に数学Aの各単元の応用力の養成
10	理数数学Ⅱ分野の発展 拡充①	12	数学Ⅱ分野の発展的学習	主に数学Ⅱの各単元の応用力の養成
11	理数数学Ⅱ分野の発展 拡充② 後期中間考査	9	数学B分野の発展的学習	主に数学Bの各単元の応用力の養成
12	理数数学Ⅰ・Ⅱ・理数数 学特論分野(Ⅰ・Ⅱ・A・ B)の発展拡充①	12	各分野を融合した総合的、 発展的内容の学習	複数の分野における知識・考え方を融合した総 合的な内容の学習に取り組む。
13	理数数学Ⅰ・Ⅱ・理数数 学特論分野(Ⅰ・Ⅱ・A・ B)の発展拡充②	11	各分野を融合した総合的、 発展的内容の学習	複数の分野における知識・考え方を融合した発 展的な内容の学習に取り組む。

計 96 時間 (55 分授業)

教科（科目）	理数（理数数学特論）	単位数	4単位	学年（科）	3学年（情報科学科）
使用教科書	数研出版『改訂版 高等学校 数学Ⅰ』・『改訂版 高等学校 数学A』 『改訂版 高等学校 数学Ⅱ』・『改訂版 高等学校 数学B』 『改訂版 高等学校 数学Ⅲ』				
副教材等	数研出版『チャート式 増補改訂版 解法と演習 数学Ⅰ+A』 『チャート式 改訂版 解法と演習 数学Ⅱ+B』 『チャート式 改訂版 解法と演習 数学Ⅲ』 数研出版『改訂版 4STEP 数学Ⅰ+A』 『改訂版 4STEP 数学Ⅱ+B』 『改訂版 サクシード 数学Ⅲ』				

1 学習目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、課題を総合的かつ多面的に考察することとおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいた判断する態度を育成する。各単元での基礎基本の定着を徹底させ、実戦問題に対応できる思考能力を身につける。

2 指導の重点

極限、微分法、微分法の応用、積分法とその応用の考え方を理解させ、標準的・発展的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。「発展内容の学習」においては、特に数学Ⅲの分野に重点を置く。基本的内容や重要事項の定着も十分にはかり、後半で応用力・記述力を育成することで、高等学校数学の総まとめとする。授業や自宅学習を中心とした学習に重点を置きながら、目標達成に努めてもらいたい。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

（関心・意欲・態度）	（思考・判断・表現）（技能）		（知識・理解）
関心・意欲・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
数学的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを事象の考察に進んで活用しようとしている。	数学的活動を通して、数学的な見方や考え方に身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り考えを深めている。	事象を数量、図形などで数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付けている。	数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。

以上の観点を踏まえ、

- ・授業の取組（授業態度、グループまたはペアでの学習活動への参加状況など）
- ・日々の課題や週末の課題の取組状況、及び提出状況
- ・学習到達度確認問題と定期考査の成績

などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

基礎、標準レベルの力をつけるには、繰り返し演習に取り組むことが重要である。各種副教材や授業で扱う問題に重点を置き学習していこう。また、標準レベル以上の問題は「考える」ことを意識し、解法の糸口を模索してほしい。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	Ⅲ 【式と曲線】	3	① 2次曲線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2次曲線の平行移動・ 2次曲線と直線 ・ 2次曲線の性質 ・ 曲線の媒介変数表示・ 極座標と極方程式 ・ コンピュータの利用
		4	② 媒介変数表示と極座標	
	【関数】	1	問題演習	2次曲線の問題演習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 分数関数・ 無理関数・ 逆関数と合成関数
		4	○関数	
5	Ⅲ 【極限】	4	① 数列の極限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数列の極限・ 無限等比数列・ 無限級数 ・ 関数の極限・ 三角関数と極限・ 関数の連続性
		7	② 関数の極限	
		1	問題演習	極限分野の問題演習
6	Ⅲ 【微分法】	2	① 導関数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 微分係数と導関数・ 導関数の計算 ・ いろいろな関数の導関数・ 第n次導関数 ・ 曲線の方程式と導関数
		5	② いろいろな関数の導関数	
	【微分法の応用】	5	① 導関数の応用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接線の方程式・ 平均値の定理 ・ 関数の値の変化・ 関数のグラフ ・ 方程式、不等式への応用・ 速度と加速度 ・ 近似式
		2	② いろいろな応用	
7	Ⅲ 【積分法とその応用】	4	① 不定積分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不定積分とその基本性質・ 置換積分法 ・ 部分積分法・ いろいろな関数の不定積分 ・ 定積分のいろいろな問題 ・ 面積・ 体積・ 道のり・ 曲線の長さ
		4	② 定積分	
		6	③ 積分法の応用	
8	理数数学Ⅰ分野の発展 拡充①	5	数学Ⅰ分野の発展的学習	主に数学Ⅰの各単元の応用力の養成
9	理数数学Ⅰ分野の発展 拡充② 前期期末考査	12	数学A分野の発展的学習	主に数学Aの各単元の応用力の養成
10	理数数学Ⅱ分野の発展 拡充①	16	数学Ⅱ分野の発展的学習	主に数学Ⅱの各単元の応用力の養成
11	理数数学Ⅱ分野の発展 拡充② 後期中間考査	12	数学B分野の発展的学習	主に数学Bの各単元の応用力の養成
12	理数数学Ⅰ・Ⅱ・理数数 学特論分野（Ⅰ・Ⅱ・A・ B）の発展拡充①	16	各分野を融合した総合的、 発展的内容の学習	複数の分野における知識・考え方を融合した総合的な内容の学習に取り組む。
2 3	理数数学Ⅰ・Ⅱ・理数数 学特論分野（Ⅰ・Ⅱ・A・ B）の発展拡充②	15	各分野を融合した総合的、 発展的内容の学習	複数の分野における知識・考え方を融合した発展的な内容の学習に取り組む。

計 128 時間 (55 分授業)

教科 (科目)	理科 (総合理科Ⅱ)	単位数	3単位	学年 (科)	3学年 (国際文化科)
使用教科書	数研出版『改訂版化学基礎』『改訂版生物基礎』				
副教材等	数研出版『リードα化学基礎』 『大学入学共通テスト対策チェック&演習 化学基礎』 『大学入学共通テスト対策チェック&演習 生物基礎』 啓林館『新編センサー生物基礎』 浜島書店『ニューステージ生物図表』				

1 学習目標

身近な事象に対する関心や探究心を高め、生物学的視点・化学的視点に立って探究する能力を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、現代が抱える環境問題や生命に関する問題に対して、科学的に考察する態度を育成する。

2 指導の重点

- ① 様々な科学事象に関心を持ち、それらの事象を科学的に分析しようとする態度を養う。
- ② 実験やモデルを通じた活動を通して、科学的に思考する能力と態度を育てる。
- ③ 基本的な概念や原理・法則を理解する。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自然現象に関心をもち、意欲的にそれらを探求し、科学的に物事を考えようとしている。	身の回りの事象の中に問題を見だし、それらを科学的に考察・検証し、そこから導き出した考えを的確に表現しようとしている。	観察・実験活動を通じて、実験器具や装置の基本的な操作方法や、それらの結果や過程の記録・整理など、科学的に探求しようとしている。	自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解しようとしている。

以上の観点を踏まえ、

- ・学習到達度確認問題及び定期考査の成績
- ・授業態度
- ・課題の内容及び提出状況

などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

- ① 課題を設定しましょう。
現在の自分を理解し、自分が取り組む上でふさわしい課題を見つけましょう。思考問題や計算問題など。
- ② 家庭学習を継続しましょう。
課題解決には、化学・生物の基本的な学力は不可欠です。家庭学習で一つ一つの事柄をしっかりと覚えていき、不足する知識を補いましょう。
- ③ 授業を中心にしましょう。
授業に集中して臨み、授業内でしっかりと理解していくこと。学習到達度確認問題をとおして基本事項を定着させることには徹底的に向き合しましょう。
- ④ 自走しましょう。
やらされるのではなく、自分の意思で進みましょう。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動 (指導内容)
4 5 6	前期中間考査	32	(化学分野) ・物質の構成と化学結合 (生物分野) ・生物と遺伝子	1年次に学習した化学基礎、2年次に学習した生物基礎、理科探究の学習内容を踏まえて、さらに発展的な問題・事象を取り上げ、考察する。 化学分野では燃料電池、生物分野では遺伝子解析などの先端分野についても話題として取り上げる。 また、身の回りの科学的事象や、生活に使われている様々な製品の材料、人体のしくみや医薬品の利用についても学習し、科学と現代社会との関わりについての理解を深める。
7 8 9	前期期末考査	26	(化学分野) ・物質の変化 (生物分野) ・生物の体内環境の維持 ・生物の多様性と生態系	用語や概念の正確な理解と、科学的な事象の本質的理解を迫及する。
10 11 12 1 2 3	後期中間考査	38	・化学基礎と生物基礎の全般に関わる事柄	数的処理のスピードアップを図る。 今まで身につけた学力をもとに、実践的な問題について考察でき、グラフやデータから情報を読み取り活用できる実力を養成する。

計 96 時間 (55 分授業)

教科 (科目)	理数物理	単位数	4単位 (128)	学年 (科)	3学年 (情報科学科)
使用教科書	・東京書籍『改訂 物理』				
副教材等	・第一学習社『セミナー物理基礎+物理』 ・河合出版『物理のエッセンス (力学・波動)』 『物理のエッセンス (熱・電磁気・原子)』 ・数研出版『改訂版大学入学共通テスト対策チェック&演習物理』				

1 学習目標

物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 指導の重点

法則や式の意味を考え、必要な問題演習を確保し、「丸暗記」に頼らず、物理的な思考ができるようにする。また、実験的な要素も取り入れ、視覚的なイメージを持つことができるようにする。

3 評価規準と評価方法

○関心・意欲・態度

自然現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究し、科学的に物事を考えることができる。

○思考・判断・表現

身の回りの事象の中に問題を見だし、それらを科学的に考察・検証し、そこから導き出した考えを的確に表現する事ができる。

○観察・実験の技能

観察・実験活動を通じて、実験器具や装置の基本的な操作方法や、それらの結果や過程の記録・整理など、科学的に探究することができる。

○知識・理解

自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解できる。

4 学習アドバイス

物理の問題を一生懸命考えることを通して、物理的な考え方の理解が深まります。「こうすれば必ず解ける」という特効薬はありませんし、解法を覚えるだけの学習には限界があります。

1つ1つの問題とじっくり向き合い、自分の頭で考え、解決方法を見つけ出すしかないので。

・式をつくるコツ

step1 考えることを大切に。作図で現象を整理しよう (力や速度などを矢印であらわす)。

必要な記号や物理量 (長さ、質量、速度などを物理量という) などを記入していけば、どの法則や公式を使えばよいか見えてくるはず。

step2 法則や式の意味を考える。「丸暗記」は物理の大敵 (法則・式は使うことで覚える)。

step3 用語や定義は正確に記憶する。慣れてきたら、自分で公式を導けるようにしよう。

5 学習計画

月	単元・考查等	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	2編 波 〔前期中間考查〕	6	1章 波の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・正弦波の式について理解する。 ・ホイヘンスの原理を用いて、反射の法則や屈折の法則について理解する。 ・波の干渉と干渉条件について理解する。
5		5	2章 音	<ul style="list-style-type: none"> ・音の性質（反射、屈折、回折、干渉）について理解する。 ・ドップラー効果について理解する。
6		10	3章 光	<ul style="list-style-type: none"> ・光の速さとその測定方法について理解する。 ・光の性質（散乱、反射、屈折、分散、偏光）について理解する。 ・光の回折と干渉について、ヤングの実験、回折格子、薄膜干渉の具体例を用いて理解する。 ・レンズとその像について、レンズの公式なども用いて理解する。 ・球面鏡とその像について理解する。
7	3編 電気と磁気 〔前期末考查〕	8	1章 電場と電位	<ul style="list-style-type: none"> ・電荷が相互に及ぼし合う力や電場（電界）の表し方について理解する。 ・電場中の物体の様子やその内外の電場について理解し、箔検電器などの実験から、静電誘導、静電遮蔽（シールド）、誘電分極について理解する。 ・コンデンサーの充電と放電、電気容量等の基本的な性質について理解する。また、コンデンサーの接続における合成容量や、電気容量と誘電体との関係について理解する。
8		6	2章 電流	<ul style="list-style-type: none"> ・電池の起電力と内部抵抗の測定や、ホイートストンブリッジによる抵抗値の測定などを通して、キルヒホッフの法則、抵抗率の温度変化、電球の電流－電圧特性などについて理解する。また、コンデンサーを含む電気回路や、半導体の特性について理解する。
9		4	3章 電流と磁場	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験を通して、直線電流のまわり、円形電流の中心、ソレノイドの内部にできる磁場について理解する。 ・観察、実験を通して、電流が磁場から受ける力を表す式やローレンツ力について理解する。
10		12	4章 電磁誘導と電磁波	<ul style="list-style-type: none"> ・コイルを貫く磁束が変化するとき及び導線が磁束を横切るときに生じる誘導起電力、自己誘導、相互誘導、渦電流、交流発電機の仕組みなどについて理解する。 ・交流回路におけるコンデンサーやコイルのリアクタンス、抵抗とコンデンサーとコイルを含む回路のインピーダンスについて理解する。
11	4編 原子 〔後期中間考查〕	7	1章 電子と光	<ul style="list-style-type: none"> ・電子の発見に関する歴史的な実験にも触れながら、真空放電などの実験を通して、電子の比電荷、電気素量について理解する。 ・プランク定数の測定などの実験から、光電効果、光量子仮説、電子線回折、物質波について理解する。また、X線の性質や利用について理解する。
12		13	2章 原子と原子核	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の構造について理解する。また、水素原子のスペクトルの観察などを通して、スペクトルの波長に規則性があることや、ボーアの原子モデルなどを学び、原子が出す光のスペクトルと電子のエネルギー準位の関係について理解する。 ・原子核の構成、原子核の崩壊、半減期、核分裂、核融合、原子核反応を扱い、質量とエネルギーの等価性、原子力発電の仕組みについて理解する。 ・素粒子の存在、4つの基本的な力などについて理解する。
1	物理基礎・物理	4	終章 物理学が築く未来	<ul style="list-style-type: none"> ・物理学の発展と成果が科学技術の基盤をつくり、それらが様々な分野において応用され、未来の社会の形成、未知の世界の探究に大きな役割を果たしていることを理解する。また、物理学の発展によってもたらされる新しい科学技術について、その恩恵とリスクについて理解する。
2		11	力学分野	<ul style="list-style-type: none"> ・物理基礎および物理の各単元において発展的内容を取り扱う。 ・物理的観点から自然科学への理解を深め、物理的探究心を養う。
	11	熱力学分野		
	11	波動分野		
	10	電磁気分野		
	10	原子分野		

計 128 時間(55 分授業)

教科 (科目)	理数 (理数化学)	単位数	4単位	学年 (科)	3学年 (情報科学科)
使用教科書	数研出版『改訂版化学』				
副教材等	第一学習社『セミナー化学基礎+化学』、第一学習社『十訂版スクエア最新図説化学』 数研出版『2023 化学重要問題集 化学基礎・化学』				

1 学習目標

化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 指導の重点

- (1) 自然科学に対する関心を高め、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。
- (2) 実験を行い、科学的に探究するために必要な技能を身に付ける。
- (3) 実験等を通じて、化学的な事物・現象に主体的に関わろうとする態度と、科学的に探究する力を養う。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
化学的な事物・現象に関心をもち、事物・現象を科学的に考察しようとしている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、情報を適切に処理することで、規則性や認識をまとめて説明できる。	実験の目的を明確に把握し、目的意識を持って主体的に実験できる。	化学的な事物・現象に関する基礎的な知識及び基本的な概念や原理・法則を深く、系統的に理解している。

以上の観点を踏まえ、

- ・学習到達度確認問題の成績
- ・定期考査の成績
- ・授業態度
- ・実験レポートの内容及び提出状況
- ・課題内容及び提出状況

などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

「授業第一」 授業はしっかりと集中して受けましょう。強調された内容や、取り組んだ問題は、授業時間内にできる限り理解できるように努めよう。

「日々復習」 授業内容の復習を毎日行いましょう。教科書・問題集・プリントの問題に繰り返し取り組もう。理論化学分野（2年時の単元内容）を復習する機会に限られています。新学期から問題集で計画的に復習しましょう。

「皆で頑張る」 『わからなければ聞けばいい。持っていないなら借りればいい。逆に聞かれたら教えるべきだし、持っているものは与えるべきだ。人間、一人でできることなどたかが知れている。』これは科学者の佐々木正氏の言葉です。わからないところは遠慮なく質問し、また、互いに教え合うことで理解を深めよう。

「自己更新」 『本気で思い、それを達成しようという強い信念を持って、その瞬間を一生懸命に生きる。』
『一度きりの人生、精いっぱい生きる。今を一生懸命生きたら、明日が絶対よくなる。』
『常にライバルは自分自身。他人と比べるのではなく、自分史上最高を目指す。』
(ジャパネットたかた創業者 高田明氏の言葉)

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動 (指導内容)
4	第3編 無機物質 第1章 非金属元素	9	1 元素の分類と周期表 2 水素 3 貴ガス元素 4 ハロゲン元素 5 酸素・硫黄 6 窒素・リン 7 炭素・ケイ素	化学基礎で学んだ周期表や同族元素の名称を復習し、非金属元素の水素・貴ガス、ハロゲン元素、酸素・硫黄、窒素・リン、炭素・ケイ素の各単体や各化合物の性質を理解する。
5	第2章 金属元素 (I) — 典型元素 —	7	1 アルカリ金属元素 2 2族元素 3 アルミニウム・亜鉛 4 スズ・鉛	金属元素は非金属元素とは大きく性質が異なる点に着目し、アルカリ金属元素、マグネシウム・アルカリ土類金属元素、アルミニウム・亜鉛、スズ・鉛の各単体や各化合物の性質を理解する。
	第3章 金属元素 (II) — 遷移元素 —	7	1 遷移元素の特徴 2 鉄 3 銅 4 銀 5 金・クロム・マンガン	遷移元素全般についてその特徴を理解し、身近な元素である鉄、銅、銀、金・クロム・マンガンの各単体や各化合物、イオンの性質を理解する。
6	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の 分類と分析	3	1 有機化合物の特徴と分類 2 有機化合物の分析	有機化合物の特徴や分類法、成分元素の検出、実験から分子式を求める方法などを学ぶ。
	第2章 脂肪族炭化水素 [前期中間考査]	7	1 飽和炭化水素 2 不飽和炭化水素	有機化合物の命名法や、単結合・二重結合・三重結合など分子の共有結合に基づく構造や性質を理解する。
7	第3章 アルコールと 関連化合物	12	1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン 3 カルボン酸 4 エステルと油脂	酸素原子を含む有機化合物の、アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステルなどについて、特徴的な性質を学ぶ。
8 9	第4章 芳香族化合物 [前期期末考査]	14	1 芳香族炭化水素 2 フェノール類 3 芳香族カルボン酸 4 芳香族アミンとアゾ化合物 5 有機化合物の分離	ベンゼン環を含む芳香族化合物の、ニトロ化、ハロゲン化、スルホン化など主要な反応と、それらによりつくられる代表的な化合物の性質を学ぶ。
9 10	第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質	1	1 高分子化合物の構造と性質	高分子化合物全般について、分類と構造、および性質を学び、重合反応を理解する。また、生体を構成する有機化合物である、糖、アミノ酸・タンパク質、核酸の構造や性質を理解する。
	第2章 天然高分子化合物	12	1 天然有機化合物の種類 2 単糖・二糖 3 多糖 4 アミノ酸 5 タンパク質 6 核酸	
	第3章 合成高分子化合物	8	1 合成高分子化合物 2 合成繊維 3 合成樹脂 4 天然ゴムと合成ゴム	
11	復習 [後期中間考査]	14	理論化学分野・有機化合物	理論化学分野と有機化合物を中心に、問題演習を通じて理解をより深める。
12	復習	10	全範囲	全範囲を復習するために問題演習を行う。
1 ～	復習	24	全範囲	問題演習を行うことでより理解を深める。習熟度に応じて発展的な問題にも取り組む。

計 128 時間 (55 分授業)

教科（科目）	理数（理数生物）	単位数	4単位	学年（科）	3学年（情報科学科）
使用教科書	・数研出版『改訂版 生物』『改訂版 生物基礎』				
副教材等	・浜島書店『ニューステージ生物図表』 ・数研出版『四訂版 リードα生物』 ・数研出版『大学入学共通テスト対策 チェック&演習 生物』				

1 学習目標

理数生物で学ぶ内容を、演習等を行い、より深める。生物や生物現象のしくみについて考察する能力を、問題に取り組みながら高めていく。生物学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 指導の重点

- ①様々な事例を通して、自然と生物に対して関心を持ち、理解を深める。
- ②観察や実験を通して生物学的に探究する能力と態度を育てる。
- ③基本的な概念や原理・法則を理解する。
- ④生物学的に探究する方法や問題解決の能力を身につけ、その結果として大学入試にも十分対応できる学力を身につける。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

（関心・意欲・態度）	（思考・判断・表現）（観察・実験の技能）	（知識・理解）	
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
自然現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究し、科学的に物事を考えようとしている。	身の回りの事象の中に問題を見だし、それらを科学的に考察・検証し、そこから導き出した考えを的確に表現しようとしている。	観察・実験活動を通じて、実験器具や装置の基本的な操作方法や、それらの結果や過程の記録・整理など、科学的に探究しようとしている。	自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解しようとしている。

以上の観点を踏まえ、

学習到達度確認問題と定期考査の成績、授業態度、提出物の内容及び提出状況などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

①授業内での完全理解を目指そう。

授業の前にあらかじめ教科書を読み、分かりにくい部分や疑問点を探しましょう。授業でとるノートは、授業の内容を思い出し、定着させるためにとるものと認識してください。つまり、授業中に生じた疑問や解説も書くようにしましょう。多くの生物用語が出てきますが、その意味を理解し、適切に使えるようにしましょう。実際にいる身近な生き物や様々な生命現象を、学んだ知識と関連付けて理解するように学習しましょう。各種課題の作成においては、自ら関心をもって調べるなど、積極的に取り組みましょう。

②家庭学習は復習中心。

家庭学習では、問題集を中心に、授業で取り組んだ内容を復習しましょう。授業で身につけた知識を定着させるように継続して取り組むこと。また、応用問題にも取り組みながら、より深い理解と実践力をつけていくこと。学習到達度確認問題や、定期考査で確認を行い、適宜学習活動を改善しながら実力向上に努めましょう。

③生物の授業では

生物に関心を持つという観点から、授業では、現在行われている研究や最先端の生物学の話も展開する予定です。興味を持っている分野があったら、積極的に調べてみてください。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動 (指導内容)
4	第2編 生殖と発生 第4章 生殖と発生	(13)	5. 初期発生の過程 6. 細胞の分化と形態形成 7. 植物の配偶子形成と発生	<ul style="list-style-type: none"> ・胚発生の過程について理解する。 ・被子植物の器官の分化の過程について理解する。
5	第3編 生物の環境 応答 第5章 動物の反応 と行動	(12)	1. ニューロンとその興奮 2. 刺激の受容 3. 情報の統合	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューロン(神経細胞)の基本的な構造とそれはたらしきを理解する。 ・刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に持ち上げ、効果器に関しては筋肉を中心に持ち上げる。
6	第5章 動物の反応 と行動 [前期中間考査]	(14)	4. 刺激への反応 5. 動物の行動	<ul style="list-style-type: none"> ・受容器で受け取られた刺激(情報)が、神経系を介して、効果器へと至る経路を学習する。
7	第6章 植物の環境 応答	(13)	1. 植物の反応 2. 成長の調節	<ul style="list-style-type: none"> ・植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解する。 ・環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを学習する。
8	第6章 植物の環境 応答	(8)	3. 花芽形成と発芽の調節	<ul style="list-style-type: none"> ・環境要因による花芽形成と種子発芽の調節の様子を学習する。
9	[前期期末考査] 第7章 生物群集と 生態系	(13)	1. 個体群 2. 個体群内の個体間の関係 3. 異種個体群間の関係 4. 生物群集 5. 生態系における物質生産 6. 生態系と生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・個体群や生物群集について、それぞれの特徴を学習する。 ・個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。 ・いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について学習する。 ・生物多様性に影響を与える要因を理解させ、生物多様性の重要性を認識する。
10	第8章 生命の起源 と進化	(17)	1. 生命の起源 2. 生物の変遷 3. 進化のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の起源および生物の変遷を学習する。 ・生命の誕生や生物の変遷は、地球環境の変化と密接に関係していることを理解する。 ・生物の進化については、そのしくみを学習する。 ・分子進化の概念や種分化のしくみについても学習する。
11	第9章 生物の系統	(14)	1. 生物の分類と系統 2. 原核生物 3. 原生生物 4. 植物 5. 動物 6. 菌類	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の種類は多様であるが、それらが系統によって分類できることを理解する。 ・個々の分類群については、その概要を学習する。
12	[後期中間考査]	(8)	全範囲の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・生物に関する総合的な問題演習を通して、より理解を深める。
1		(16)	全範囲の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・生物に関する総合的な問題演習を通して、より理解を深める。
2				
3				

計 128時間 (55分授業)

教科 (科目)	体育	単位数(時数)	2 単位	学年 (科)	3 学年 (国際文化科・情報科学科)
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	なし				

1. 学習目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2. 指導の重点

- ①各種の運動をとおして運動技能の向上を図り、バランスのとれた身体の発達を促すとともに、公正・協力・責任などの態度を育てる。
- ②運動する習慣を身に付け、基礎体力と柔軟性の向上を目指す。

3. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。

4. 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。
評価方法	授業への取り組み（授業態度、学習活動への参加状況）や定期考査、技能テスト等を上記の観点から総合的に評価します。		

5. 課題・提出物等

適宜指示があります。

6. 学習アドバイス

①自分自身の健康や体力に関心を持つ。
②各領域の運動特性を理解しよう。
③生涯にわたってスポーツを主体的に実践していく態度と方法を身に付けよう。

7. 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価 の 観点	評価方法
4	体づくり 運動	6	体ほぐしの運動 体力を高める運動 スポーツテスト	<ul style="list-style-type: none"> 各種体ほぐしの運動 整列や列の増減の方法 体力向上を目指したサーキット トレーニング スポーツテストの8項目測定 	a b c	授業の取組
5	陸上競技	6	長距離走	<ul style="list-style-type: none"> 持久走，大学往復走（5km） 	a b c	記録測定
7	陸上競技 または 器械運動	8	障害走・跳躍 マット・跳び箱・ 鉄棒運動 （自由演技）	<ul style="list-style-type: none"> 100mハードル・三段跳・ 1000m/1500m 計測のいずれかを選択 マット・跳び箱・鉄棒のうちどれか 1つを選択，発展技に挑む。 	a b c	記録測定 演技発表
	武道 または ダンス	8	柔道 または ダンス	<ul style="list-style-type: none"> ルールや審判法を学ぶ。 乱取りや試合ができるように する。 自分たちでテーマをもって創作 する。 発表・鑑賞会を開催する。 	a b c	技能演技 演技発表
8	体育理論	6	豊かなスポーツ ライフの設計	<ul style="list-style-type: none"> 生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ 日本のスポーツ振興 スポーツと環境 	a b c	定期考査
9 10 11	球技Ⅰ	15	屋外球技選択 <ul style="list-style-type: none"> サッカー ソフトボール テニス 1種目を選択	<ul style="list-style-type: none"> 自主的にチーム編制を行い，ゲー ムを楽しむ。 実践的な技術を高める。 	a b c	技能テスト
12 1 2	球技Ⅱ	15	屋内球技選択 <ul style="list-style-type: none"> バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球 1種目を選択	<ul style="list-style-type: none"> 自主的にチーム編制を行い，ゲー ムを楽しむ。 実践的な技術を高める。 	a b c	技能テスト

計 6 4 時間（5 5 分授業）

教科 (科目)	英語 (総合英語)	単位数	4単位	学年 (科)	3学年 (国際文化科)
使用教科書	東京書籍『PROMINENCE English Communication III』				
副教材等	・いいずな書店『総合英語be』 ・英単語 STOCK 4500 ・東京書籍『Prominence English Communication III 学習用CD』 ・IC レコーダー				

1 学習目標

1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。
2. 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えたり発表したりする能力を伸ばす。

2 指導の重点

- ① 内容言語統合型学習(CLIL)の理念を取り入れ、内容の理解に重きを置き、思考することや学習スキルに焦点を当てながら英語によるコミュニケーション能力の育成し、さらに自身の文化あるいは相互文化の意識を高めます。
- ② クラス内での英語のやり取りを重視します。
- ③ 教科書の題材に対し、自分の考えを社会の状況とともに論理的に発信できるようになることを目指します。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現) (技能)		(知識・理解)
コミュニケーションに対する意欲・関心	英語理解の能力	英語表現の能力	言語や文化について知識や理解
他者の意見に興味を持ち、英語を用いて互いに意見を交換する姿勢を持つようとする。	英語で読み、聞くことで、与えられた、もしくは、得た情報を正しく理解し、解釈することができる。	英語で、書いたり、話したりすることで、自己表現をし、情報を伝えることができる。	英語運用能力とともに、文化的背景知識に関心を持っている。

以上の観点を踏まえ、

- ・ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況
- ・ワークシートへの記述内容などの課題への取り組み状況
- ・本文の要約などの発表活動およびプロジェクト活動などの調べ学習への取り組み状況
- ・パフォーマンステスト (音読テスト、スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・学習到達度確認問題
- ・定期考査 (中間考査、期末考査)、課題考査

などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

- ①内容に関連して興味のあることは、様々な素材を自ら調べて理解を深め、授業内外の表現活動に生かしましょう。
- ②教科書の語彙、文法、表現は積極的に使って定着させましょう。
- ③テキストの行間にある登場人物や筆者の真意について自分なりの考察をし、話したり書いたりして自分の意見を表現し、メモを取りながら聴いたり読んだりして他者の意見も取り入れ、考察を深めることを楽しみましょう。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	Lesson 1 Ito Jakuchu —The Rediscovered Artist	8	日本の美術	<ul style="list-style-type: none"> ・200年の時を超越して蘇った伝統絵画の評価とその技巧に関心を持ち、作品を鑑賞・考察した結果を周囲と積極的に英語で意見交換する。 ・日本の伝統絵画を多面的に評価する視点を持ち、特に現代の科学技術との関連についての的確に理解する。
	Lesson 2 Leaving Microsoft to Change the World	8	人生における新たな進路 の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・人の生き方・人生の進路の選択に関心を持ち、自分の進路について考えながら、題材を鑑賞する。 ・絵とキーワードを使って、ウッド氏の人生の進路変更の様子について口頭で説明し自分の意見を述べる。
5	Lesson 3 A One-Million-Dollar Lottery Ticket	8	所有権を主張をする3人の 訴え	<ul style="list-style-type: none"> ・訴訟を審理する裁判と裁判制度に関心を持ち、自分が参加するときのことを想像しながら、訴訟の内容と当事者たちの主張について理解し考える。
	Lesson 4 Recycling Hotel Soap to Save Lives	8	世界の衛生状態の格差や 乳幼児の死亡率	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生面における世界の地域間格差の現状に関心を持ち、資源の再利用や地域間格差の問題について、自分ができるとは何かを考える。
6	Lesson 5 Question Authority!	8	「権威」に対したときの考 え方や態度	<ul style="list-style-type: none"> ・大小の権威に対する考え方について、日本人と英米人の違いを理解する。 ・グループ内で関連トピックについて話し合い、結論を出す。
	Lesson 6 The True Cost of Fast Fashion	8	ファストファッション	<ul style="list-style-type: none"> ・ファストファッションの生産国における労働環境と賃金、環境問題について理解している。 ・「ファストファッションの問題を解決するために何をするか。」について自分の意見を述べる。
7, 8	Lesson 7 What Is College For?	8	大学は何のためにあるの か	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの大学教育の長所短所について理解する。 ・日米の大学教育の類似点や相違点について理解する。
	Lesson 8 Attitudes toward Time	8	世界の各地域における時 間に対する考え方や対応 の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる文化圏における人々の時間に対する姿勢について、日本人との相違を知ることによって、その人々によりよい関係を築くのに役立つことを理解する。
9	Lesson 9 Science of Love	8	人間と恋愛感情	<ul style="list-style-type: none"> ・恋愛感情を論理的分析的に考察することに関心を持ち、自分自身の経験も振り返りながら、恋愛感情について考える。 ・人間の感情でさえ脳の働きと捉え、それを科学的に研究する方法があることを理解する。
10	Lesson 10 Human BUYology	8	マーケティング戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の企業活動にどのような問題が潜んでいるかを的確に理解する。 ・「賢明な消費者」になるためには、どのようなことに気をつけなければならないかを話し合う。
	Lesson 11 The Robots Are Coming—Aren't They?	8	人型のロボットを作るこ と	<ul style="list-style-type: none"> ・人型ロボットの可能性やコンピューターの現在の状態に関心を持ち、それらの問題点や将来の予想について理解する。 ・科学的な課題を論証するときの典型的な論理展開を理解する。
11	Lesson 12 The Thing with Feathers	8	餌を蓄える習性のある動 物	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイイロシシガラスの記憶力の実験の内容について、その論理性や結論を理解する。
12	Lesson 13 Technology as Trash	8	廃棄物が、発展途上国で 引き起こしている深刻な 環境被害	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題を引き起こす責任は消費者にもあるが、問題を改善させる力もあることを理解する。
1	Lesson 14 The flight from Conversation	8	インターネット通信社会 がもたらしたコミュニケ ーションの変化	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット通信社会の長所と短所を理解する。 ・インターネット通信と面と向かってする会話の違いや独りであることの意味について理解する。
2	Lesson 15 Bring New Light on Traditional Assumptions	8	問題解決の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・独創的な発想を生み出すことの重要性和、難題を解決する機会があれば積極的に挑む必要があることを理解する。
3	Lesson 16 TOKYO SKYTREE: A Gathering Place Up in the Heavens	8	日本の伝統文化と科学技 術への応用	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統文化が現代の科学技術にどのように応用されているかについて正しい知識を持ち、理解する。

計 128 時間 (55 分授業)

教科（科目）	英語（英語表現B）	単位数	2単位	学年（科）	3学年（国際文化学科）
使用教科書	・東京書籍『NEW FAVORITE English Expression II』				
副教材等	・東京書籍『NEW FAVORITE English Grammar II』 ・いいずな書店『総合英語be』 ・数研出版『UP GRADE 英文法・語法問題』 ・数研出版『入試必携英作文 Write to the Point』				

1 学習目標

他の科目との連携のもと、四技能統合を活用しながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 総合英語で学んでいる内容と関連づけながら、四技能(読む、聞く、話す、書く)をバランスよく養う。
- ② 自分の意見や考えを相手に伝わるように論理的に書いたり、話したりできるようにする。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現) (技能)		(知識・理解)
コミュニケーションに対する意欲・関心	英語理解の能力	英語表現の能力	言語や文化について知識や理解
他者の意見に興味を持ち、英語を用いて互いに意見を交換する姿勢を持つようとする。	英語の文法理解でなく、その運用方法を理解することができる。	英語で、書いたり、話したりすることで、自己表現をし、情報を伝えることができる。	英語運用能力とともに、文化的背景知識に関心を持っている。

以上の観点を踏まえ、

- ・授業への取り組み方や授業態度、提出物の内容および提出状況
- ・学習到達度確認問題の成績
- ・定期考査・課題考査の成績
- ・エッセイやレポート

などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

- ・様々なトピックについて、論理性を意識しながら発信できるように授業の復習を徹底させましょう。
- ・英作文では与えられた日本語を簡単な日本語に直し、英語に直すという観点で学習しましょう。
- ・クラスメートの発話や書いたものに対して共感したり、疑問点を指摘したりのやりとりを積極的に行いましょう。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動 (指導内容)
4	Lesson 1 School Uniforms Lesson 2 Online Addiction	5	動詞・時制 助動詞	制服の是非について話し合う。 オンラインゲームの危険性について意見を述べる。
5	Lesson 3 Using the Internet Lesson 4 Specialization in Sports	6	準動詞① 準動詞②	インターネットの利用法について話し合う。 興味のある話題について発表する。
6	Lesson 5 Writing a Diary in English Lesson 6 My Future Career Lesson 7 Pets	7	準動詞③ 比較 受け身	英語で日記を書く。 将来の夢、就きたい職業について話す。 ペットについて話す。
7.8	Lesson 8 A Little Escape Lesson 9 Good Fortune	6	関係詞 仮定法①	行ってみたい場所について話す。 もしもの話をする。
9	Lesson 10 Barrier-Free Society Lesson 11 Food Self Sufficiency Lesson 12 Japanese Longevity	7	仮定法② 直接話法と間接話法 無生物主語	バリアフリー社会に向けて提言する。 食料自給率について考える。 長寿社会について考える。
10	Lesson 13 Why Don't You Visit Japan? Lesson 14 A Lucky Day	7	パラグラフ&エッセイライティング	日本旅行の良い点についてパラグラフを書く。 自分の幸運だった日について時間軸に沿って情報を並べて書く。
11	Lesson 15 Visiting Australia Lesson 16 Pros and Cons of Traveling Abroad	7	パラグラフ&エッセイライティング	旅行先としてオーストラリアを訪問する理由を項目ごとに説明して書く。 海外旅行の長所と短所を考え、パラグラフを書く。
12	Lesson 17 Proposing a New School Uniform Lesson 18 Let's Cook our Meals	5	提案を述べる	制服をリニューアルすることの提案を書く。 加工食品や飲料に頼る生活の問題点を述べ、解決するための提案を書く。
1	Lesson 19 Welcome to Osaka Lesson 20 Let's Fly to the UK	6	スピーチ&プレゼンテーション	自分の学校にやってくる留学生に学校のある町を紹介するスピーチを行う。 正月に初詣をするかどうかについてのクラスアンケートの調査結果を報告するプレゼンテーションを行う。
2	Debate Lesson 1 Debate Lesson 2	5	ディベート	高校生が修学旅行で海外へ行くべきかどうかについてディベートする。
3	Debate Lesson 3 Debate Lesson 4	3	ディベート	ある論題を決め、ディベートを行う。

計 64 時間 (55 分授業)

教科（科目）	上級英語	単位数	2単位	学年（科）	3学年（国際文化科）
使用教科書	・朝日出版社『CNN Workbook Extended Course 2022』				
副教材等	・いっずな書店『Change the World [Approach] 入試必修編』				

1 学習目標

- ・自然・社会問題等社会性の高いトピックについて読み聞きし、ディスカッションやディベート等を通して、批判的観点を視野に入れながら自らの考えを論理的に口頭や筆記で伝える。
- ・コミュニケーション活動をリードすることができる発展的英語能力を身に付ける。

2 指導の重点

- ① 取り上げられる題材に対する批判的及び論理的思考を育む。
- ② 諸外国の事情や文化との類似点や相違点に関する理解を深め、より深い国際的視野を育む。
- ③ ディスカッションやプレゼンテーション等において積極的に自分の意見を表現し、相手の意見も引き出しながら円滑なコミュニケーションを生み出すことができる英語運用能力を育む。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

（関心・意欲・態度）	（思考・判断・表現）（技能）		（知識・理解）
コミュニケーションに対する意欲・関心	英語理解の能力	英語表現の能力	言語や文化について知識や理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で聞き、読み、話し、書く言語活動に参加している。	様々な話題に関して、情報や考えなど、相手に伝えようとする事柄を、英語で話したり、書いたりして、的確かつ論理的に表現することができる。	様々な話題に関して、情報や考えなど相手が伝えようとする事柄を的確に理解することができる。	様々な話題についての学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解している。

以上の観点を踏まえ、

- ・授業への取り組み方や授業態度、提出物の内容および提出状況
- ・定期考査の成績
- ・エッセイやレポートなどのアウトプット活動

などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

- ① 異文化を理解する上で、背景知識も大切となるので、普段から新聞や本を積極的に読みましょう。
- ② 文章は大意をつかんだ上で、品詞や文構造を意識しながら精密に読みましょう。
- ③ 語彙の習得に励みましょう。意味を推測しながら読み、辞書で意味を確認しましょう。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動(指導内容)
4	News 1 Mechanical Labor Shortage News 2 Making History	5	Technology Society	ロボットに荷物を運んでもらいたいかどうか議論し、他に新型コロナウイルス拡大で起こった変化について考える。 自分だったらどんなコンテストを運営するか考え、考えを共有する。
5	News 3 Honoring a Health Hero News 4 Screened Out	6	Health Environment	ナイチンゲールがクリミア戦争中に手洗いを主張した理由を考え共有する。 学校のプール授業で日焼け止めを禁止することについてそのルールのは非を議論する。
6	News 5 Stone Age Controversy News 6 Young at Heart	7	Tourism Japan	自分の住んでいる歴史的遺跡が急に有名になり、多くの観光客が訪れるようになったらどのように思うか考えをまとめる。 お年寄りから学んだ役に立つことを周囲と共有する。
7.8	News 7 Cleaning the Air News 8 Old is New Again	6	Environment Technology	低炭素社会を作るためにひとりひとりができることを考える、共有する。 COVID-19 下の私たちの生活の中で、娯楽の役割とは何だろうか。例を挙げて周囲と共有する。
9	News 9 Mascot Makeover News 10 Nifty Nose	7	Sport Unusual News	時代を超えて引き継がれるべき伝統について考え説明する。 動物のように人間より優れた感覚があれば、どの感覚を選ぶか考え、その利点を議論する。
10	News 11 Out of This World News 12 Playing for Life	7	Space Neurological Science	地球外生命体とコミュニケーションを取るために何が必要だと思うか議論する。 外科医だったら、手術中に音楽家の患者が音楽を演奏するのをよしとするかどうか理由を含めて考える。
11	News 13 That'll Be a Sight News 14 National Insecurity	7	Science International	暗闇でも見えるとしたら何をみたいか考え理由とともに考えを共有する。 香港の最近の状況について調べ、その変化によって引き起こされている結果を共有し、是非を議論する。
12	News 15 Can We All Just Get Along?	5	Social Media	SNS の功罪を経験に則して議論し、問題回避のためにできることを考える。
1	News 16 Pretending Made Possible News 17 Looking Out for Lizards	6	Society Nature	日本は代理出産を合法にすべきかどうか議論する。 化学の天才だとしたら、気候変動を止めるためにどんなものを発明するか想像力を発揮して考え、その考えを共有する。
2	News 18 War of the Words News 19 Impressive Insert	5	Society Science	権力乱用と感じる事柄にはどのようなことがあるのか確認し、どのような方法で国民がそれに異を唱えることができるか考える。 自然や生物からひらめきを得て作られたものを調べ、共有する。
3	News 20 Making the Break	3	Politics	「自分の利益」と「協調性」が相反するときに考え、それぞれの功罪を議論する。

計 64 時間 (55 分授業)

教科（科目）	英語 (グローバルスタディーズⅡ)	単位数	8単位	学年（科）	3学年（国際文化科）
使用教科書	Cambridge University Press, 『Academic Encounters 2 Reading/Writing 2 nd Edition』				
副教材等	Cambridge University Press 『Academic Encounters 2 Listening/Speaking 2 nd Edition』				

1 学習目標

1. 英語でのディスカッションを通して、課題解決能力、論理的思考力及び批判的思考力を育てる。
2. 異なる文化や考え方を持つ人々から成る集団の中で協働できる力を醸成する。
3. 海外の大学に就学できる高次の英語運用能力及び教養を身につける。

2 指導の重点

- ・テキスト以外の様々な研究分野に触れ、リベラルアーツとして包括的に学習することを目指します。
- ・コモンアプリケーションや各大学への出願手続きを通して、高次の英語運用能力を育てます。
- ・出願資料の1つであるエッセーを通して、自分自身を英語で表現する力を育てます。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

①コミュニケーションに対する関心・意欲・態度	②英語理解の能力	③英語表現の能力	④言語や文化についての知識や理解
文化を越えて意欲的にコミュニケーションを図ろうとしている。他者と協力して課題を解決しようとしている。	様々な話題に関して、相手が伝えようとする事柄を的確に捉え、多様な英語を理解することができる。	やや抽象的な事柄や学術的な内容について英語で自分の意見を論理的に表現することができる。	様々な言語やその背景にある文化について理解し、幅広い知識を身につけている。

以上の観点を踏まえ、

- ・授業への貢献度(participation)
- ・授業課題(assignment)
- ・プレゼンテーション(presentation)
- ・エッセーライティング(essay writing)

などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

1. 大学調べ、エッセーライティングを通して、進路と自己を探求しましょう。
2. 膨大な情報の中から自分にとって必要な情報を取捨選択できるように、自分の軸をしっかり持ちましょう。
3. 世界で起きている様々な出来事だけでなく、日本のことについてもニュースを見たり本を読んだりして知識を深めましょう。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動 (指導内容)	
4	1. 春休み課題の確認 2. コース・オリエンテーション 3. My Identity Card 作成	24	リベラル・アーツ (分野を問わず、様々な科目の講義を受けて英語でアウトプット活動を行う)	<ul style="list-style-type: none"> ・コース概要を説明し、目標を確認する。 ・自己探求の一環として、「My Identity Card」を作成し、発表を行う。 ・様々な時事問題について動画を視聴したり記事を読んだりして、問題点について議論する。 ・音楽、歴史、自然科学などの分野について先生方から講義を受ける。また、そこから学んだことについて英語でエッセーにまとめる。またはプレゼンテーションを作成する。 ・コモンアプリケーションの準備作業を始める。 ・Ted Talk からプレゼンテーションに必要なスキルを学び応用する。 ・先輩の Ted Talk から学ぶ。 ・My Ted Talk を作成し、発表する。 	
5	『Academic Encounter』 1. The Foundation of Government	26			
6	2. Constitutional Issues Today 「自分史」	30			
7	3. The Origins of Diversity	24			
9	4. Diversity in the US Today	24		高次の英語スピーキング・ライティング	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストから学んだ内容についてエッセーを書く。 「Contrasting Attitudes Toward Diversity」
10	5. The Struggle Begins	28			
11	6. The Struggle Continues	30			<ul style="list-style-type: none"> ・テキストから学んだ内容について考察し、プレゼンテーションを行う。 「American Values」
12	7. American Values of the Past	24	<ul style="list-style-type: none"> ・コモンアプリケーションのトピックから1つ選びコア・エッセーを書く。 		
1	8. American Values Today	20	<ul style="list-style-type: none"> ・出願したい大学の論題に合わせてエッセーを書く。 		
2	海外大学へのブリッジプログラム	20	ミニ・レクチャー	探究したいテーマのミニレクチャー (生徒が先生になって授業を準備する) を行う。	
3		6			

計 256 時間 (55 分授業)

教科 (科目)	英語 (コミュニケーション英語Ⅲ)	単位数	4単位	学年 (科)	3学年 (情報科学科)
使用教科書	東京書籍『PROMINENCE English Communication Ⅲ』				
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・いいずな書店『総合英語 be』 ・英単語 STOCK 4500 ・東京書籍『Prominence English Communication Ⅲ 学習用CD』 ・IC レコーダー 				

1 学習目標

1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。
2. 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えたり発表したりする能力を伸ばす。

2 指導の重点

- ① 内容言語統合型学習(CLIL)の理念を取り入れ、内容の理解に重きを置き、思考することや学習スキルに焦点を当てながら英語によるコミュニケーション能力の育成し、さらに自身の文化あるいは相互文化の意識を高めます。
- ② クラス内での英語のやり取りを重視します。
- ③ 教科書の題材に対し、自分の考えを社会の状況とともに論理的に発信できるようになることを目指します。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現) (技能)		(知識・理解)
コミュニケーションに対する意欲・関心	英語理解の能力	英語表現の能力	言語や文化について知識や理解
他者の意見に興味を持ち、英語を用いて互いに意見を交換する姿勢を持つようとする。	英語で読み、聞くことで、与えられた、もしくは、得た情報を正しく理解し、解釈することができる。	英語で、書いたり、話したりすることで、自己表現をし、情報を伝えることができる。	英語運用能力とともに、文化的背景知識に関心を持っている。

以上の観点を踏まえ、

- ・ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況
- ・ワークシートへの記述内容などの課題への取り組み状況
- ・本文の要約などの発表活動およびプロジェクト活動などの調べ学習への取り組み状況
- ・パフォーマンステスト (音読テスト、スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・学習到達度確認問題
- ・定期考査 (中間考査、期末考査)、課題考査

などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

- ①内容に関連して興味のあることは、様々な素材を自ら調べて理解を深め、授業内外の表現活動に生かしましょう。
- ②教科書の語彙、文法、表現は積極的に使って定着させましょう。
- ③テキストの行間にある登場人物や筆者の真意について自分なりの考察をし、話したり書いたりして自分の意見を表現し、メモを取りながら聴いたり読んだりして他者の意見も取り入れ、考察を深めることを楽しみましょう。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	Lesson 1 Ito Jakuchu —The Rediscovered Artist	8	日本の美術	<ul style="list-style-type: none"> ・200年の時を超越して蘇った伝統絵画の評価とその技巧に関心を持ち、作品を鑑賞・考察した結果を周囲と積極的に英語で意見交換する。 ・日本の伝統絵画を多面的に評価する視点を持ち、特に現代の科学技術との関連についての的確に理解する。
	Lesson 2 Leaving Microsoft to Change the World	8	人生における新たな進路 の選択	<ul style="list-style-type: none"> ・人の生き方・人生の進路の選択に関心を持ち、自分の進路について考えながら、題材を鑑賞する。 ・絵とキーワードを使って、ウッド氏の人生の進路変更の様子について口頭で説明し自分の意見を述べる。
5	Lesson 3 A One-Million-Dollar Lottery Ticket	8	所有権を主張をする3人の 訴え	<ul style="list-style-type: none"> ・訴訟を審理する裁判と裁判制度に関心を持ち、自分が参加するときのことを想像しながら、訴訟の内容と当事者たちの主張について理解し考える。
	Lesson 4 Recycling Hotel Soap to Save Lives	8	世界の衛生状態の格差や 乳幼児の死亡率	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生面における世界の地域間格差の現状に関心を持ち、資源の再利用や地域間格差の問題について、自分ができるとは何かを考える。
6	Lesson 5 Question Authority!	8	「権威」に対したときの考 え方や態度	<ul style="list-style-type: none"> ・大小の権威に対する考え方について、日本人と英米人の違いを理解する。 ・グループ内で関連トピックについて話し合い、結論を出す。
	Lesson 6 The True Cost of Fast Fashion	8	ファストファッション	<ul style="list-style-type: none"> ・ファストファッションの生産国における労働環境と賃金、環境問題について理解している。 ・「ファストファッションの問題を解決するために何をするか。」について自分の意見を述べる。
7, 8	Lesson 7 What Is College For?	8	大学は何のためにあるの か	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの大学教育の長所短所について理解する。 ・日米の大学教育の類似点や相違点について理解する。
	Lesson 8 Attitudes toward Time	8	世界の各地域における時 間に対する考え方や対応 の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる文化圏における人々の時間に対する姿勢について、日本人との相違を知ることによって、その人々によりよい関係を築くのに役立つことを理解する。
9	Lesson 9 Science of Love	8	人間と恋愛感情	<ul style="list-style-type: none"> ・恋愛感情を論理的分析的に考察することに関心を持ち、自分自身の経験も振り返りながら、恋愛感情について考える。 ・人間の感情でさえ脳の働きと捉え、それを科学的に研究する方法があることを理解する。
10	Lesson 10 Human BUYology	8	マーケティング戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の企業活動にどのような問題が潜んでいるかを的確に理解する。 ・「賢明な消費者」になるためには、どのようなことに気をつけなければならないかを話し合う。
	Lesson 11 The Robots Are Coming—Aren't They?	8	人型のロボットを作るこ と	<ul style="list-style-type: none"> ・人型ロボットの可能性やコンピューターの現在の状態に関心を持ち、それらの問題点や将来の予想について理解する。 ・科学的な課題を論証するときの典型的な論理展開を理解する。
11	Lesson 12 The Thing with Feathers	8	餌を蓄える習性のある動 物	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイイロシガラスの記憶力の実験の内容について、その論理性や結論を理解する。
12	Lesson 13 Technology as Trash	8	廃棄物が、発展途上国で 引き起こしている深刻な 環境被害	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題を引き起こす責任は消費者にもあるが、問題を改善させる力もあることを理解する。
1	Lesson 14 The flight from Conversation	8	インターネット通信社会 がもたらしたコミュニケ ーションの変化	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット通信社会の長所と短所を理解する。 ・インターネット通信と面と向かってする会話の違いや独りであることの意味について理解する。
2	Lesson 15 Bring New Light on Traditional Assumptions	8	問題解決の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・独創的な発想を生み出すことの重要さと、難題を解決する機会があれば積極的に挑む必要があることを理解する。
3	Lesson 16 TOKYO SKYTREE: A Gathering Place Up in the Heavens	8	日本の伝統文化と科学技 術への応用	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統文化が現代の科学技術にどのように応用されているかについて正しい知識を持ち、理解する。

計 128 時間 (55 分授業)

教科（科目）	英語（英語表現Ⅱ）	単位数	2単位	学年（科）	3学年（情報科学科）
使用教科書	・東京書籍『NEW FAVORITE English ExpressionⅡ』				
副教材等	・東京書籍『NEW FAVORITE English Grammar Ⅱ』 ・いいずな書店『総合英語be』 ・数研出版『UP GRADE 英文法・語法問題』 ・数研出版『入試必携英作文 Write to the Point』				

1 学習目標

他の科目との連携のもと、四技能統合を活用しながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

2 指導の重点

- ① コミュニケーション英語Ⅲで学んでいる内容と関連づけながら、四技能(読む、聞く、話す、書く)をバランスよく養う。
- ② 自分の意見や考えを相手に伝わるように論理的に書いたり、話したりできるようにする。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

（関心・意欲・態度）	（思考・判断・表現）（技能）		（知識・理解）
コミュニケーションに対する意欲・関心	英語理解の能力	英語表現の能力	言語や文化について知識や理解
他者の意見に興味を持ち、英語を用いて互いに意見を交換する姿勢を持つようとする。	英語の文法理解でなく、その運用方法を理解することができる。	英語で、書いたり、話したりすることで、自己表現をし、情報を伝えることができる。	英語運用能力とともに、文化的背景知識に関心を持っている。

以上の観点を踏まえ、

- ・授業への取り組み方や授業態度、提出物の内容および提出状況
 - ・学習到達度確認問題の成績
 - ・定期考査・課題考査の成績
 - ・エッセイやレポート
- などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

- ・様々なトピックについて、論理性を意識しながら発信できるように授業の復習を徹底させましょう。
- ・英作文では与えられた日本語を簡単な日本語に直し、英語に直すという観点で学習しましょう。
- ・クラスメートの発話や書いたものに対して共感したり、疑問点を指摘したりのやりとりを積極的に行いましょう。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動 (指導内容)
4	Lesson 1 School Uniforms Lesson 2 Online Addiction	5	動詞・時制 助動詞	制服の是非について話し合う。 オンラインゲームの危険性について意見を述べる。
5	Lesson 3 Using the Internet Lesson 4 Specialization in Sports	6	準動詞① 準動詞②	インターネットの利用法について話し合う。 興味のある話題について発表する。
6	Lesson 5 Writing a Diary in English Lesson 6 My Future Career Lesson 7 Pets	7	準動詞③ 比較 受け身	英語で日記を書く。 将来の夢、就きたい職業について話す。 ペットについて話す。
7.8	Lesson 8 A Little Escape Lesson 9 Good Fortune	6	関係詞 仮定法①	行ってみたい場所について話す。 もしもの話をする。
9	Lesson 10 Barrier-Free Society Lesson 11 Food Self Sufficiency Lesson 12 Japanese Longevity	7	仮定法② 直接話法と間接話法 無生物主語	バリアフリー社会に向けて提言する。 食料自給率について考える。 長寿社会について考える。
10	Lesson 13 Why Don't You Visit Japan? Lesson 14 A Lucky Day	7	パラグラフ&エッセイライティング	日本旅行の良い点についてパラグラフを書く。 自分の幸運だった日について時間軸に沿って情報を並べて書く。
11	Lesson 15 Visiting Australia Lesson 16 Pros and Cons of Traveling Abroad	7	パラグラフ&エッセイライティング	旅行先としてオーストラリアを訪問する理由を項目ごとに説明して書く。 海外旅行の長所と短所を考え、パラグラフを書く。
12	Lesson 17 Proposing a New School Uniform Lesson 18 Let's Cook our Meals	5	提案を述べる	制服をリニューアルすることの提案を書く。 加工食品や飲料に頼る生活の問題点を述べ、解決するための提案を書く。
1	Lesson 19 Welcome to Osaka Lesson 20 Let's Fly to the UK	6	スピーチ&プレゼンテーション	自分の学校にやってくる留学生に学校のある町を紹介するスピーチを行う。 正月に初詣をするかどうかについてのクラスアンケートの調査結果を報告するプレゼンテーションを行う。
2	Debate Lesson 1 Debate Lesson 2	5	ディベート	高校生が修学旅行で海外へ行くべきかどうかについてディベートする。
3	Debate Lesson 3 Debate Lesson 4	3	ディベート	ある論題を決め、ディベートを行う。

計 64 時間 (55 分授業)

教科（科目）	情報科学（情報科学・数学）	単位数	1単位	学年（科）	3学年（情報科学科）
使用教科書	数研出版『改訂版 高等学校 数学Ⅰ』・『改訂版 高等学校 数学A』 『改訂版 高等学校 数学Ⅱ』・『改訂版 高等学校 数学B』 『改訂版 高等学校 数学Ⅲ』				
副教材等	数研出版『チャート式 増補改訂版 解法と演習 数学Ⅰ+A』 『チャート式 改訂版 解法と演習 数学Ⅱ+B』 『チャート式 改訂版 解法と演習 数学Ⅲ』 数研出版『改訂版 4STEP 数学Ⅰ+A』 『改訂版 4STEP 数学Ⅱ+B』 『改訂版 サクシード 数学Ⅲ』				

1 学習目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、課題を総合的かつ多面的に考察することとおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいた判断する態度を育成する。各単元での基礎基本の定着を徹底させ、実戦問題に対応できる思考能力を身につける。

2 指導の重点

極限、微分法、微分法の応用、積分法とその応用の考え方を理解させ、標準的・発展的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。「発展内容の学習」においては、特に数学Ⅲの分野に重点を置く。基本的内容や重要事項の定着も十分にはかり、後半で応用力・記述力を育成することで、高等学校数学の総まとめとする。授業や自宅学習を中心とした学習に重点を置きながら、目標達成に努めてもらいたい。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

（関心・意欲・態度）	（思考・判断・表現）（技能）		（知識・理解）
関心・意欲・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
数学的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを事象の考察に進んで活用しようとしている。	数学的活動を通して、数学的な見方や考え方に身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り考えを深めている。	事象を数量、図形などで数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付けている。	数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。

以上の観点を踏まえ、

- ・授業の取組（授業態度、グループまたはペアでの学習活動への参加状況など）
- ・日々の課題や週末の課題の取組状況、及び提出状況
- ・学習到達度確認問題と定期考査の成績

などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

基礎、標準レベルの力をつけるには、繰り返し演習に取り組むことが重要である。各種副教材や授業で扱う問題に重点を置き学習していこう。また、標準レベル以上の問題は「考える」ことを意識し、解法の糸口を模索してほしい。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	Ⅲ 【式と曲線】 【関数】	1	①2次曲線 ②媒介変数表示と極座標	・2次曲線の平行移動・2次曲線と直線 ・2次曲線の性質 ・曲線の媒介変数表示・極座標と極方程式 ・コンピュータの利用
		1	問題演習	2次曲線の問題演習
		1	○関数	・分数関数・無理関数・逆関数と合成関数
5	Ⅲ 【極限】	1	①数列の極限	・数列の極限・無限等比数列・無限級数
		1	②関数の極限	・関数の極限・三角関数と極限・関数の連続性
		1	問題演習	極限分野の問題演習
6	Ⅲ 【微分法】 【微分法の応用】 前期中間考査	1	①導関数	・微分係数と導関数・導関数の計算
		1	②いろいろな関数の導関数	・いろいろな関数の導関数・第n次導関数 ・曲線の方程式と導関数
		1	①導関数の応用	・接線の方程式・平均値の定理 ・関数の値の変化・関数のグラフ
		1	②いろいろな応用	・方程式、不等式への応用・速度と加速度 ・近似式
7	Ⅲ 【積分法とその応用】	1	①不定積分	・不定積分とその基本性質・置換積分法
		1	②定積分	・部分積分法・いろいろな関数の不定積分 ・定積分のいろいろな問題
		1	③積分法の応用	・面積・体積・道のり・曲線の長さ
8	理数数学Ⅰ分野の発展 拡充①	1	数学Ⅰ分野の発展的学習	主に数学Ⅰの各単元の応用力の養成
9	理数数学Ⅰ分野の発展 拡充② 前期期末考査	3	数学A分野の発展的学習	主に数学Aの各単元の応用力の養成
10	理数数学Ⅱ分野の発展 拡充①	4	数学Ⅱ分野の発展的学習	主に数学Ⅱの各単元の応用力の養成
11	理数数学Ⅱ分野の発展 拡充② 後期中間考査	3	数学B分野の発展的学習	主に数学Bの各単元の応用力の養成
12 1	理数数学Ⅰ・Ⅱ・理数数 学特論分野（Ⅰ・Ⅱ・A・ B）の発展拡充①	4	各分野を融合した総合的、 発展的内容の学習	複数の分野における知識・考え方を融合した総 合的な内容の学習に取り組む。
2 3	理数数学Ⅰ・Ⅱ・理数数 学特論分野（Ⅰ・Ⅱ・A・ B）の発展拡充②	4	各分野を融合した総合的、 発展的内容の学習	複数の分野における知識・考え方を融合した発 展的な内容の学習に取り組む。

計 32 時間（55 分授業）

教科 (科目)	情報 (情報科学 (理科))	単位数	1単位	学年 (科)	3学年 (情報科学科)
使用教科書	数研出版『改訂版化学』『改訂版生物』 東京書籍『改訂物理』				
副教材等	タブレット型コンピュータ (iPad)				

1 学習目標

自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 指導の重点

- (1) 自然科学に対する関心を高め、科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。
- (2) 実験を行い、科学的に探究するために必要な技能を身に付ける。
- (3) 実験等を通じて、科学的な事物・現象に主体的に関わろうとする態度と、科学的に探究する力を養う。

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
科学的な事物・現象に関心を持ち、事物・現象を科学的に考察しようとしている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、情報を適切に処理することで、規則性や認識をまとめて説明できる。	実験の目的を明確に把握し、目的意識を持って主体的に実験できる。	科学的な事物・現象に関する基礎的な知識及び基本的な概念や原理・法則を深く、系統的に理解している。

以上の観点を踏まえ、

- ・学習到達度確認問題・定期考査の成績
- ・授業態度
- ・実験レポートと課題の内容及び提出状況

などから、総合的に評価します。

4 学習アドバイス

「授業第一」 授業はしっかりと集中して受けましょう。強調された内容や、取り組んだ実験や問題は、授業時間内にできる限り理解できるように努めよう。

5 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動 (指導内容)
4 ～ 11	無機物質・有機化合物・ 高分子化合物 (化学)	14	無機物質・有機化合物・ 高分子化合物 (化学)	理数化学の授業進度に合わせて、 関連する内容の問題演習や実験、 タブレット型コンピュータを利用 した活動等を行う。
	波・電気と磁気・原子 (物理) 生殖と発生・生物の環境応答・ 生体と環境 (生物)	14	波・電気と磁気・原子 (物理) 生殖と発生・生物の環境応答・ 生体と環境 (生物)	理数物理・理数生物の授業進度に 合わせて、関連する内容の問題演 習や実験、タブレット型コンピュ ータを利用した活動等を行う。
12 ～	復習	4	物理・化学・生物全範囲	コンピュータを活用し、物理・化 学・生物の復習を行う。

計 32 時間 (55 分授業)